

奈良県感染症発生動向調査事業報告

平成 25 年 内科・小児科感染症の概要

1. 平成 25 年の流行状況

全国的には手足口病が大流行し、咽頭結膜熱も昨年より多発していた。奈良県では手足口病は昨年の約 10 倍(定点当り 6.31→61.53)の報告があった。昨年より多い報告があったその他の疾病は、RS ウイルス感染症(20.91→26.94)、咽頭結膜熱(16.34→16.76)、突発性発疹(15.77→16.15)、ヘルパンギーナ(15.91→18.09)であったが、RS ウイルス感染症を除いては昨年とほぼ同じとみてよい。全国的に見て奈良県が特に多発した疾病はなかった。

2. 近畿および近隣の 2 府 5 県(大阪・京都・三重・滋賀・兵庫・奈良・和歌山)の状況

2 府 5 県の流行状況を見ると、大流行した手足口病は全国平均を上まわった三重県が定点当り 138.20 で昨年の 11.2 倍と多発していたが、昨年と比較すると兵庫県が 5.32 から 76.27 と近隣では一番多い約 14.3 倍の報告があった。昨年と比べると、どの府県もインフルエンザ、伝染性紅斑、百日咳、流行性耳下腺炎の報告が少なかった。

3. 各疾病の月別流行状況

月別で報告数の多かった月とピーク月を見てみると、インフルエンザは 1~2 月が多く、ピークは 1 月の 3,756 件であった。RS ウイルス感染症は 9~12 月が多く、ピークは 12 月で 239 件の報告があった。咽頭結膜熱は 4~6 月に多く、ピークは 4 月・6 月のそれぞれ 70 件であった。A 群溶連菌咽頭炎は 1~5 月に多く、ピークは 5 月の 166 件であった。感染性胃腸炎は 1~5 月と 11~12 月にかけて多く、ピークは 12 月の 1,061 件であった。水痘は 1~6 月と 12 月に多く、ピークは 5 月で 159 件の報告があった。手足口病は 6~9 月に流行し、ピークは 7 月で 892 件の報告があった。伝染性紅斑は 7 月が最も多く 9 件の報告があった。突発性発疹は 4~9 月に多く、ピークは 7 月の 62 件であった。百日咳は今年は少なく、1 月に 1 件の報告があっただけである。ヘルパンギーナは 7~8 月に集中して多く、ピーク時の 7 月には 284 件の報告があった。流行性耳下腺炎は 8~11 月に多く、ピークは 8 月の 21 件であった。

4. 年齢別・世代別報告数の検討(10 歳以上は 1 歳平均)

年代別に見ればほとんどの疾病は幼児期に多くみられるが、インフルエンザと A 群溶連菌咽頭炎は学童期に、百日咳が 1 件の報告であったが、乳児期に見られた。咽頭結膜熱は幼児期 87.8 件、A 群溶連菌咽頭炎が幼児期 99.0 件、感染性胃腸炎が幼児期 717.2 件、水痘が幼児期 183.8 件、手足口病が幼児期 342.8 件、伝染性紅斑が幼児期 4.2 件、突発性発疹が乳児期 256.0 件、百日咳は乳児期 1.0 件、ヘルパンギーナが幼児期 97.4 件、流行性耳下腺炎が 17.4 件とそれぞれの世代で最も多くの報告があった。

5. 保健所別報告数の検討(定点当り)

地区および保健所管内によって多少の差が見られた。インフルエンザでは中部地区が多く、中でも葛城保健所は定点当り 276.55 と全国平均 237.19 を上まわっていた。RS ウイルス感染症は南部地区が多く、吉野保健所が 53.00 と全国平均の 30.71 を上まわっていた。咽頭結膜熱は中部地区が多い。保健所では葛城が 36.57 で、次いで吉野が 26.00 と全国平均 23.22 を上まわっていた。A 群溶連菌咽頭炎は北部地区が多く、葛城保健所が 41.86 と一番多かったが、全国平均の 80.80 より下まわっていた。感染性胃腸炎は中部地区が多く、葛城保健所が 298.86 であったが、全国平均の 340.88 を下まわっていた。水痘は北部地区が多かった。保健所では奈良市保健所が 43.71 で一番多かったが、全国平均 55.69 より少なかった。手足口病は全国的流行を見たが、奈良県では中部地区が多く、保健所では奈良市の 84.00 が最多でも全国平均の 96.54 より少なかった。伝染性紅斑は北部地区が多く、多かった奈良市保健所でも 2.43 で、全国平均の 3.22 を下まわっていた。突発性発疹は南部地区が多い。中でも内吉野保健所が 31.50 と多く、全国平均の 28.47 を上まわっていた。百日咳は奈良市保健所で 1 件の報告があったのみである。ヘルパンギーナは南部地区が多く、内吉野保健所で 44.00 と、全国平均の 30.15 より多かった。流行性耳下腺炎は北部地区が多く、一番多いのが奈良市保健所の 6.14 であった。全国平均は 13.05 より少なかった。

(足立 豊彦 記)

全国平均と奈良県との比較(定点当り)

太文字は平成24年より多い疾病

平成25年	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
全国平均	237.19	30.71	23.22	80.80	340.88	55.69	96.54	3.22	28.47	0.53	30.15	13.05
奈良県	175.39	26.94	16.76	33.35	228.79	35.91	61.53	0.94	16.15	0.03	18.09	4.53
順位	46	31	30	45	42	45	44	43	47	46	42	43

平成24年	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
全国平均	341.14	31.18	17.00	88.17	391.65	62.27	23.17	6.67	29.34	1.30	36.44	22.76
奈良県	264.87	20.91	16.34	39.49	286.66	37.40	6.31	3.97	15.77	0.37	15.91	10.86
順位	44	39	18	43	38	47	38	30	47	40	45	43

近隣府県での定点当り数

太文字は近隣府県での最高値

平成25年	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
三重県	243.67	34.42	20.51	43.82	358.58	51.33	138.20	1.60	32.82	0.27	39.80	10.62
滋賀県	261.37	28.00	18.09	50.34	254.59	55.41	93.41	1.31	22.06	0.44	37.72	6.84
京都府	199.58	16.16	13.25	57.66	253.52	48.96	66.07	0.79	18.49	0.21	26.19	6.45
大阪府	179.38	40.40	19.72	91.02	330.96	49.80	75.33	1.74	27.15	0.89	37.68	7.10
兵庫県	217.60	32.13	20.75	43.97	400.03	57.00	76.27	2.43	25.77	0.67	36.38	7.12
奈良県	175.39	26.94	16.76	33.35	228.79	35.91	61.53	0.94	16.15	0.03	18.09	4.53
和歌山県	195.49	37.80	13.93	27.97	188.07	51.53	60.73	0.83	26.63	0.20	31.47	4.27

平成24年	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
三重県	297.68	25.40	20.60	69.80	423.31	63.76	12.36	3.47	34.16	0.38	54.04	35.49
滋賀県	303.17	31.72	12.47	87.88	378.75	54.97	16.28	1.50	30.94	1.16	40.03	12.03
京都府	295.94	17.93	8.26	65.56	340.08	50.10	8.70	3.53	18.51	0.36	18.47	12.07
大阪府	305.14	42.41	15.74	88.77	393.46	65.73	10.34	4.73	27.64	1.40	30.57	12.94
兵庫県	340.62	30.36	12.50	54.44	438.58	63.36	5.32	6.24	28.23	1.05	37.24	15.23
奈良県	264.87	20.91	16.34	39.49	286.66	37.40	6.31	3.97	15.77	0.37	15.91	10.86
和歌山県	286.14	26.87	9.35	38.13	267.81	60.29	7.10	4.74	27.94	0.58	32.32	8.55

前年との比較(倍率)

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
三重県	0.8	1.4	1.0	0.6	0.8	0.8	11.2	0.5	1.0	0.7	0.7	0.3
滋賀県	0.9	0.9	1.5	0.6	0.7	1.0	5.7	0.9	0.7	0.4	0.9	0.6
京都府	0.7	0.9	1.6	0.9	0.7	1.0	7.6	0.2	1.0	0.6	1.4	0.5
大阪府	0.6	1.0	1.3	1.0	0.8	0.8	7.3	0.4	1.0	0.6	1.2	0.5
兵庫県	0.6	1.1	1.7	0.8	0.9	0.9	14.3	0.4	0.9	0.6	1.0	0.5
奈良県	0.7	1.3	1.0	0.8	0.8	1.0	9.8	0.2	1.0	0.1	1.1	0.4
和歌山県	0.7	1.4	1.5	0.7	0.7	0.9	8.6	0.2	1.0	0.3	1.0	0.5

世代別 報告数

太文字は最高値

世代 年齢	乳児期 0歳	幼児期 1～5歳	学童期 6～14歳	思春期 15～19歳	成人期 20～59歳	老齢期 60歳～	合計
インフルエンザ	107	2019	3637	622	2481	605	9471
RSウイルス感染症	339	561	13	2	1	—	916
咽頭結膜熱	29	439	94	2	6	—	570
A群溶連菌咽頭炎	2	495	593	11	33	—	1134
感染性胃腸炎	494	3586	1848	323	1528	—	7779
水痘	53	919	236	7	6	—	1221
手足口病	188	1714	159	6	25	—	2092
伝染性紅斑	2	21	7	0	2	—	32
突発性発疹	251	298	0	0	0	—	549
百日咳	1	0	0	0	0	—	1
ヘルパンギーナ	64	487	59	2	3	—	615
流行性耳下腺炎	0	87	62	1	4	—	154

世代別 割合(%)

太文字は最高値

世代 年齢	乳児期 0歳	幼児期 1～5歳	学童期 6～14歳	思春期 15～19歳	成人期 20～59歳	老齢期 60歳～	
インフルエンザ	1.1	21.3	38.4	6.6	26.2	6.4	
RSウイルス感染症	37.0	61.2	1.4	0.2	0.1	—	
咽頭結膜熱	5.1	77.0	16.5	0.4	1.1	—	
A群溶連菌咽頭炎	0.2	43.7	52.3	1.0	2.9	—	
感染性胃腸炎	6.4	46.1	23.8	4.2	19.6	—	
水痘	4.3	75.3	19.3	0.6	0.5	—	
手足口病	9.0	81.9	7.6	0.3	1.2	—	
伝染性紅斑	6.3	65.6	21.9	0.0	6.3	—	
突発性発疹	45.7	54.3	0.0	0.0	0.0	—	
百日咳	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	
ヘルパンギーナ	10.5	79.1	9.6	0.3	0.5	—	
流行性耳下腺炎	0.0	56.5	40.3	0.6	2.6	—	

世代別 1歳代平均 報告数 換算表 (件)

太文字は最高値

世代 年齢	乳児期 0歳	幼児期 1～5歳	学童期 6～14歳	思春期 15～19歳	成人期 20～59歳	老齢期 60歳～	
インフルエンザ	107.0	403.2	404.3	124.4	62.1	20.2	
RSウイルス感染症	339.0	112.2	1.4	0.4	0.0	—	
咽頭結膜熱	29.0	87.8	10.4	0.4	0.1	—	
A群溶連菌咽頭炎	2.0	99.0	65.9	2.2	0.5	—	
感染性胃腸炎	494.0	717.2	206.3	64.6	21.8	—	
水痘	53.0	183.8	26.2	1.4	0.1	—	
手足口病	188.0	342.8	17.7	1.2	0.4	—	
伝染性紅斑	2.0	4.2	0.8	0.0	0.0	—	
突発性発疹	256.0	58.6	0.0	0.0	0.0	—	
百日咳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	
ヘルパンギーナ	64.0	97.4	6.6	0.4	0.0	—	
流行性耳下腺炎	0.0	17.4	6.9	0.2	0.1	—	

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

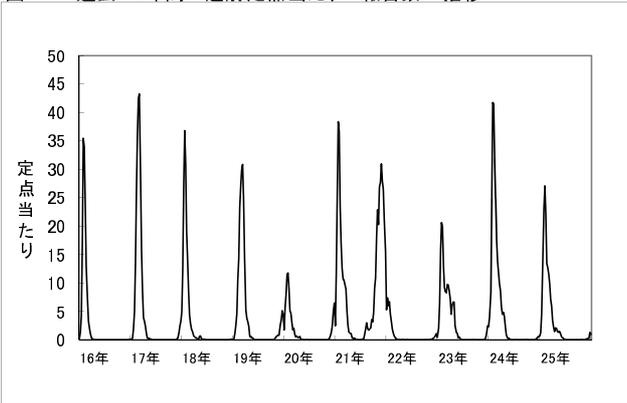


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

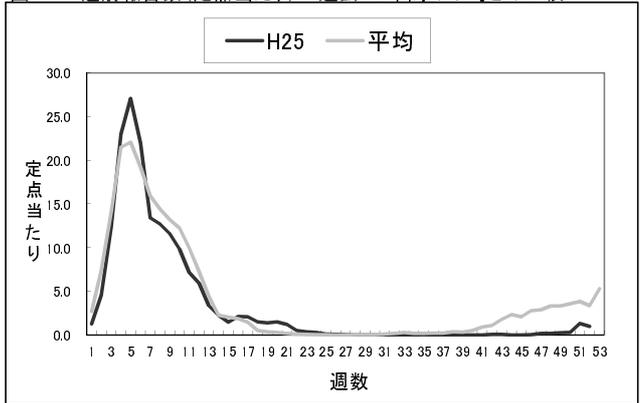


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

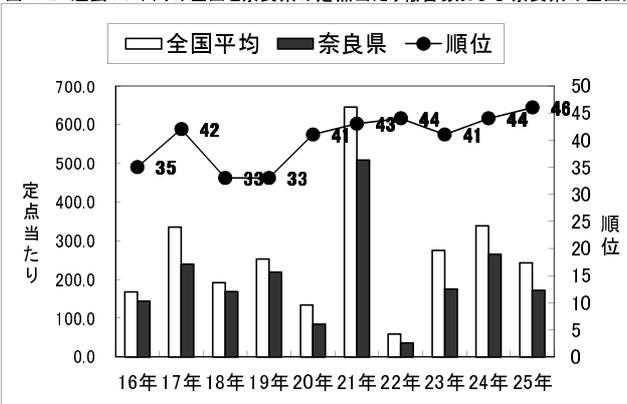


図 1-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

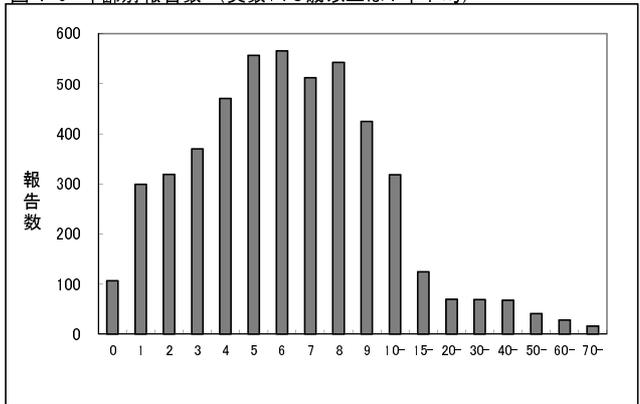


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

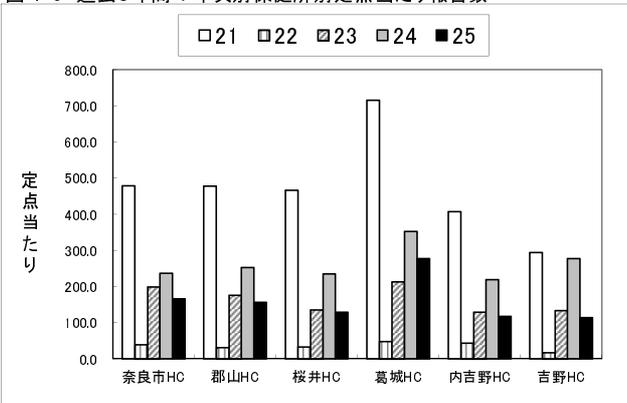
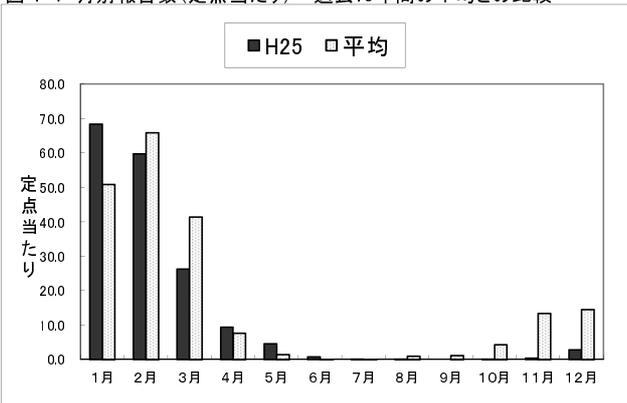


図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成25年は、報告数9471例、定点あたり172.26であった。過去10年間で6番目に多い報告数であった。

都道府県別定点あたりは、全国平均が243.12で46位であった。

月別では、12月に流行が始まり、2月をピークに6月に終息した。

年齢別では、6歳が566例で最も多く、就学前後を中心に流行した。

(有山 洋二 記)

2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

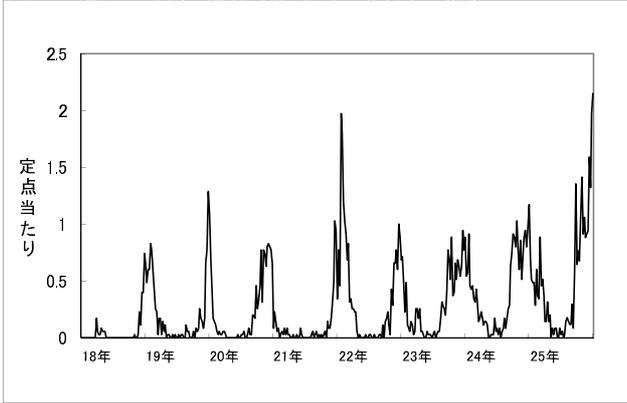


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

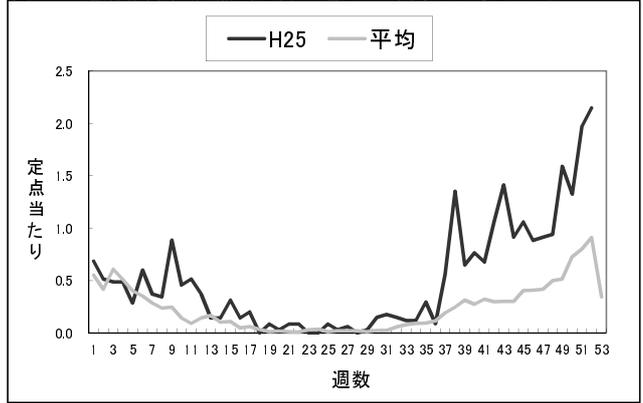


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

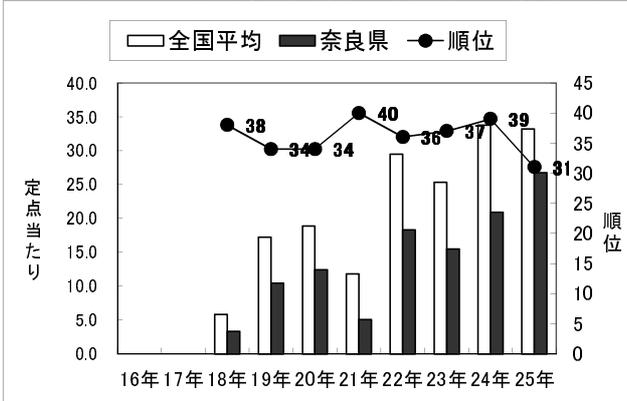


図 2-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

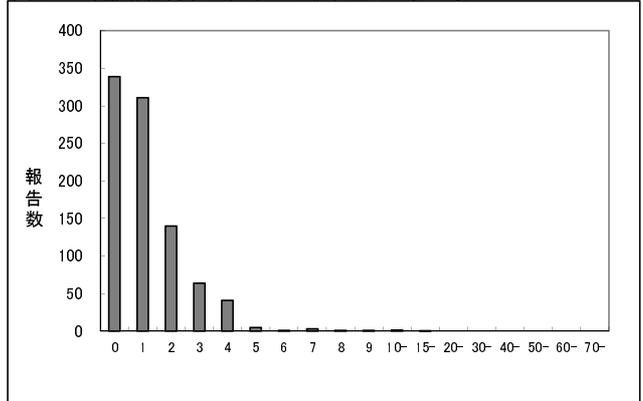


図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

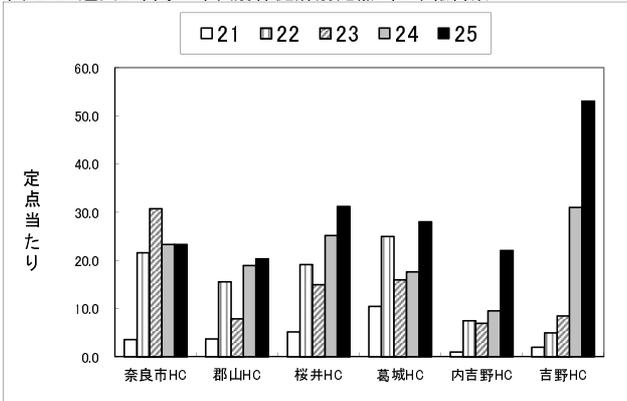
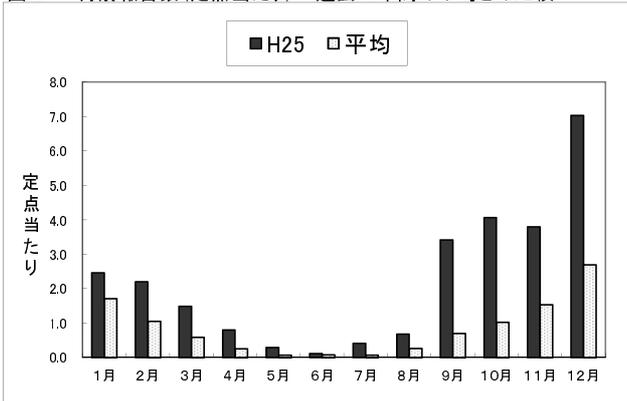


図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成25年は報告数916例、定点あたり26.7であった。過去8年間で最多となった。

都道府県別定点あたりでは、全国平均が33.2で31位であった。

月別では冬季を中心に流行し、12月にピークがみられた。

年齢別では0歳児の339例が最多で、就学前の年齢層で99.9%を占めた。

(有山 洋二 記)

3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

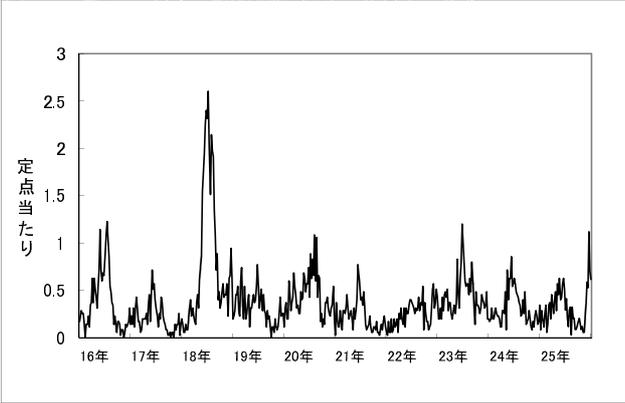


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

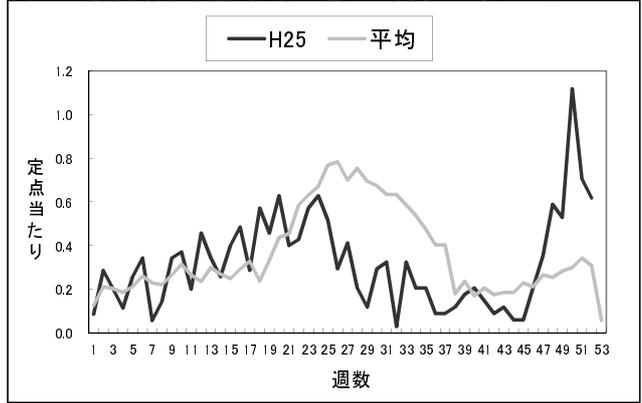


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

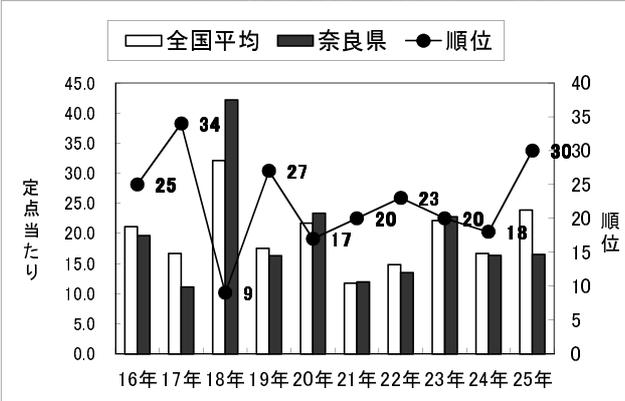


図 3-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

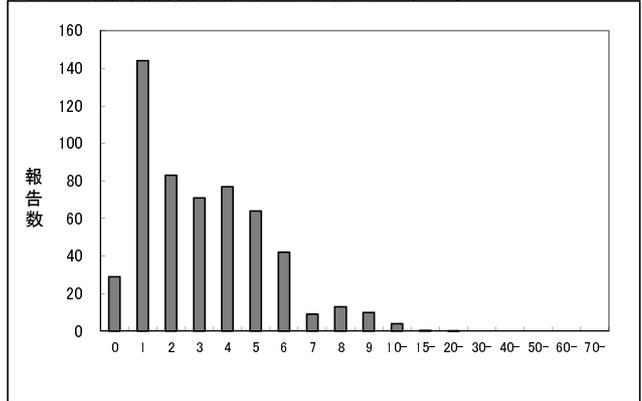


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

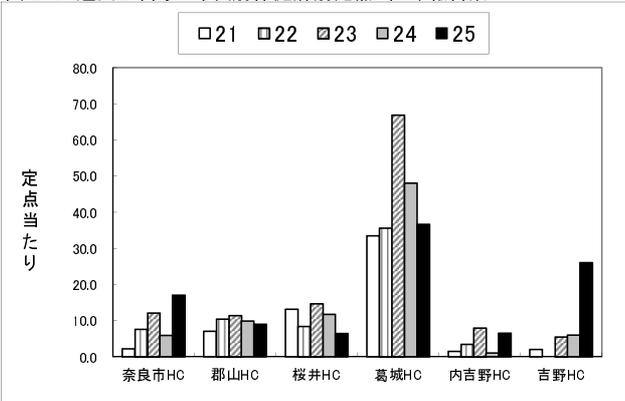
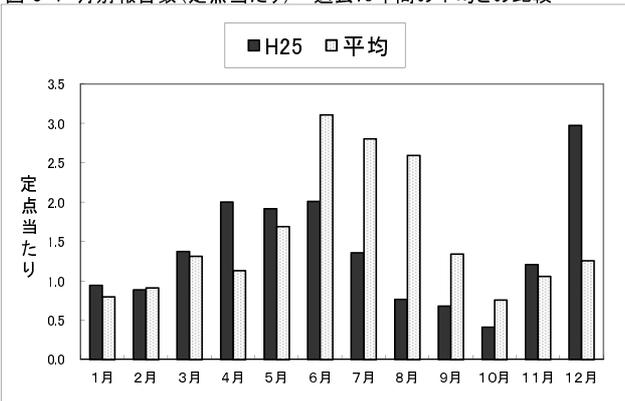


図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成25年は、報告数570例、定点あたり16.51であった。過去10年間で5番目に多い年であった。最も流行したのは平成18年の42.17で、2番目が平成20年の23.34、3番目が平成23年の22.77である。

都道府県別定点あたりでは、全国平均が23.87で30位であった。

月別では、通年性に流行し、12月にピークがみられた。

年齢別では、1歳が144例と最も多く、次いで4歳77例で幼児から就学前に多く罹患した。

(有山 洋二 記)

4.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

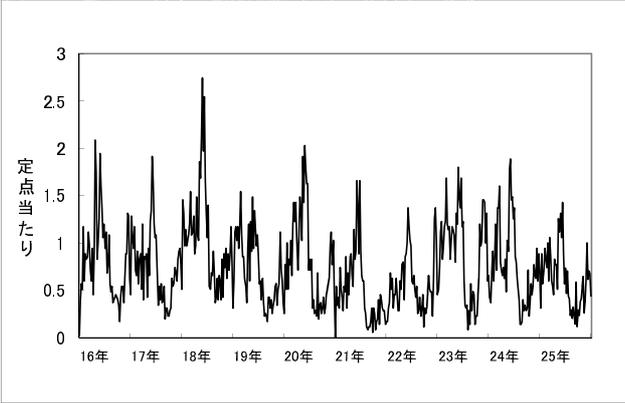


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

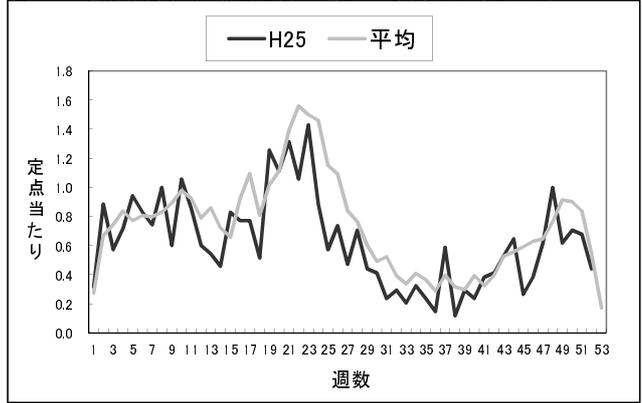


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

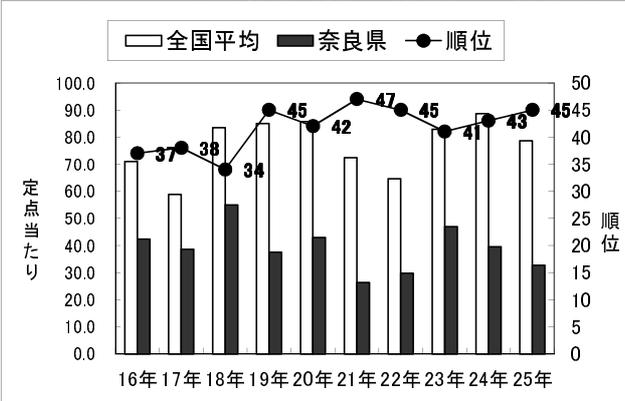


図 4-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

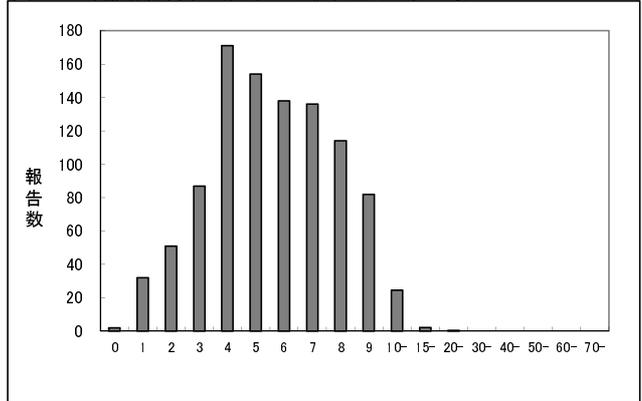


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

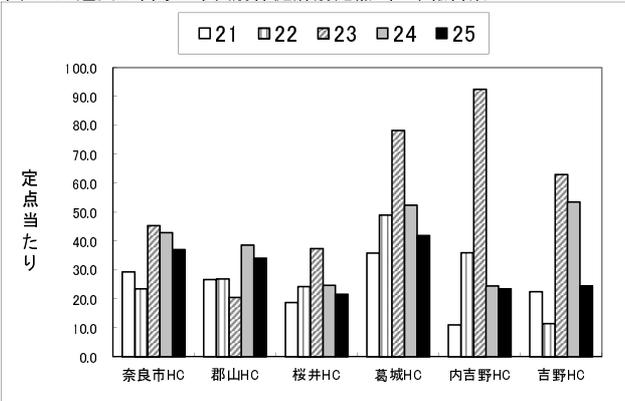
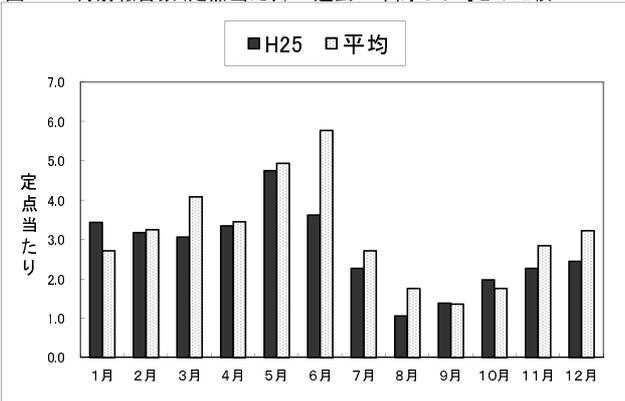


図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は1,134例、定点当たり32.75であり、前年の39.49と比較すると減少。過去10年間の定点当たりの報告数では平成18年の54.91をピークに多少の増減はあるものの減少傾向にある。都道府県別の定点当たり報告数順位も平成18年の34位をピークに以後は41～47位で推移し、本年は45位であった。保健所別の定点当たりの報告数は、最多は葛城保健所の41.86、次いで奈良市保健所の37.00で、最少は桜井保健所の21.57であった。月別の定点当たりの報告数では、1～6月は3.06～4.74で推移し、5月が4.74と最多。7月以降は減少し、2.26～1.06で推移した。年齢別の報告数は、最多は4歳171例で、5歳154例、6歳138例、7歳136例とこの年齢層をピークとする一峰性分布を示す。4歳から8歳までは各年齢とも報告数100を超え、これらで60%以上を占めた。

(橋本 和子 記)

5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

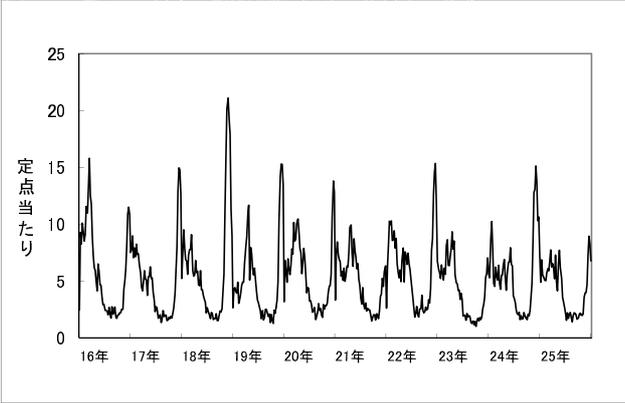


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

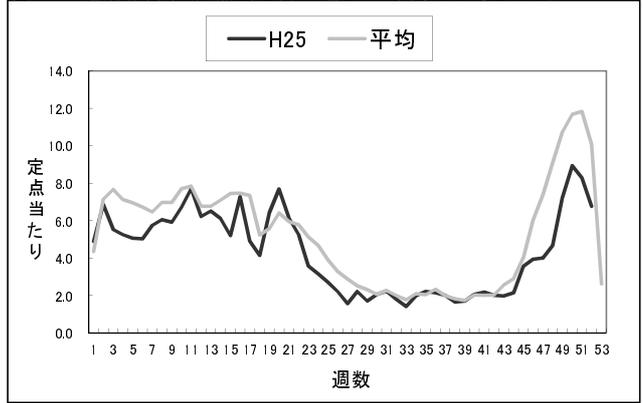


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

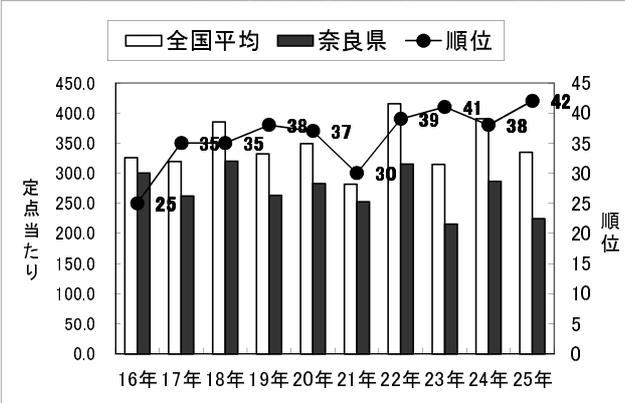


図 5-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

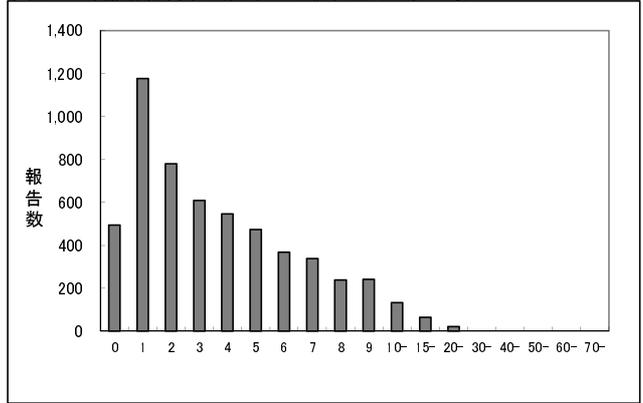


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

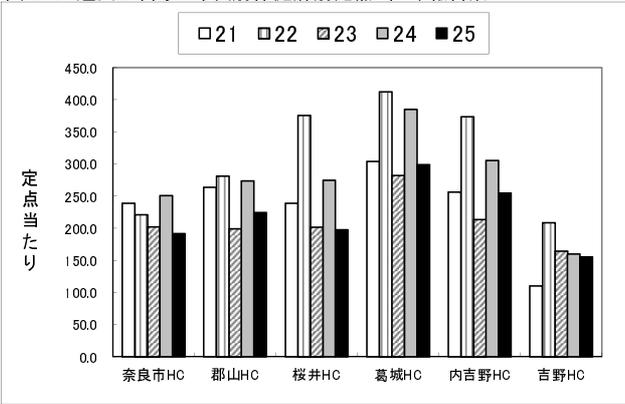
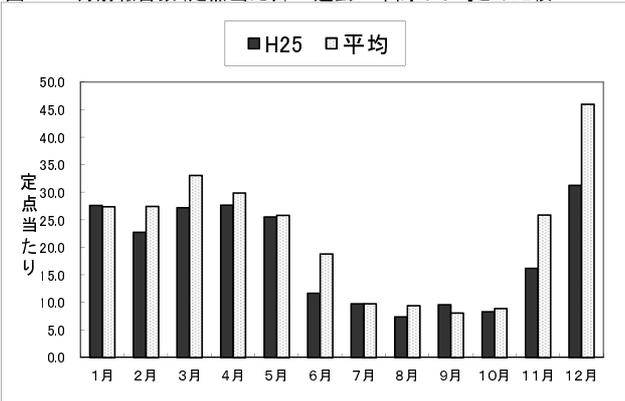


図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は7,779例、定点当たり224.67であり、前年の286.66に比べると減少。過去10年間の定点当たり報告数は300~200の間で推移している。

都道府県別の定点当たりの報告数では、奈良県は42位であった。保健所別の定点当たりの報告数は、最多は葛城保健所の298.86、次いで内吉野保健所の254.50で、最少は吉野保健所の155.50であった。

月別の定点当たりの報告数は 1月から5月まで22.74~27.66と冬から春先まで流行期が続いた。6月には11.63と減少し、夏~秋期は1桁の報告数であった。11月には16.18と増加し、12月の31.21が最多となった。

年齢別の報告数は、最多は1歳の1,177例、次いで2歳の780例であり、乳幼児期で約60%を占めた。

(橋本 和子 記)

6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

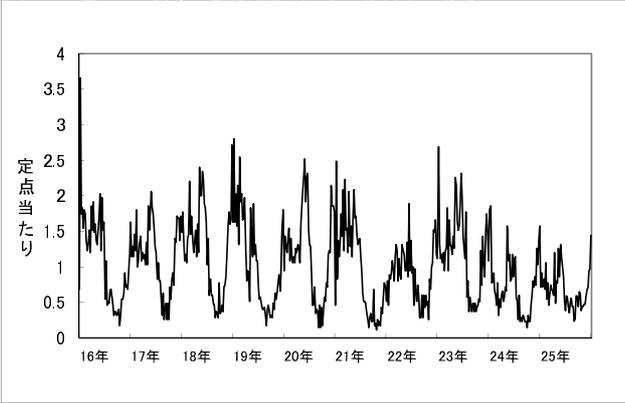


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

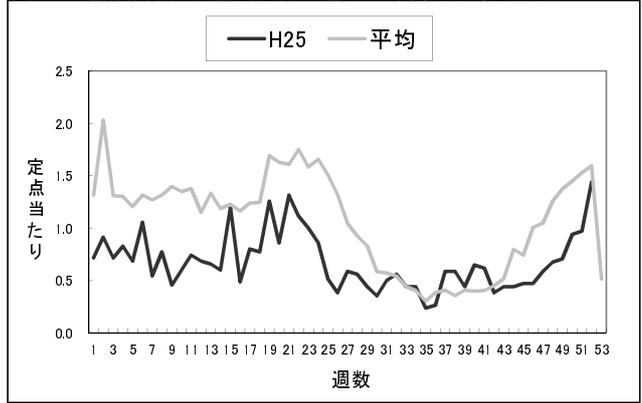


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

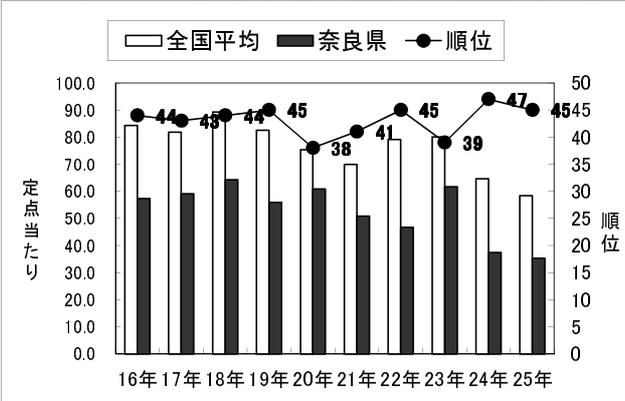


図 6-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

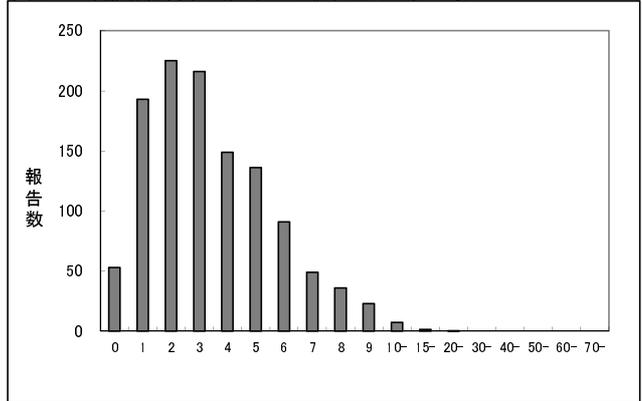


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

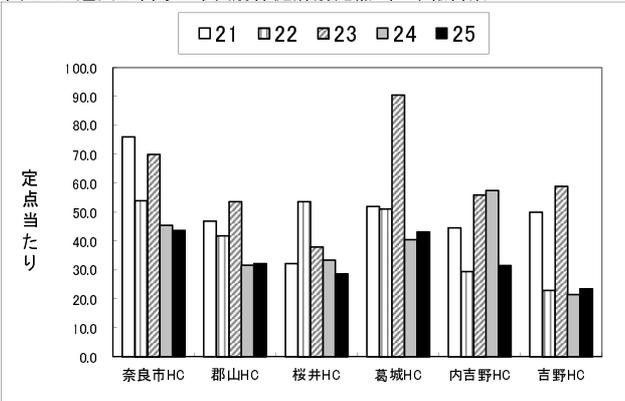
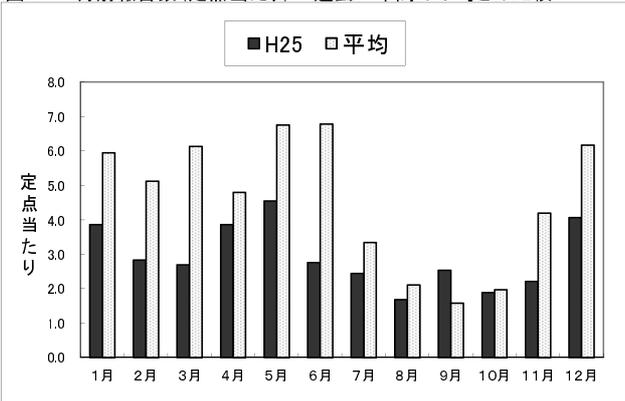


図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は1,221例、定点当たり35.32であり、前年(37.40)並みの報告数であった過去10年間の定点当たりの報告数では60前後を推移していたが、昨年に引き続き、本年も少ない報告数であった。都道府県別の定点当たりの報告数でも、奈良県は45位であった。保健所別の定点当たりの報告数は、最多は奈良市保健所の43.71、次いで葛城保健所の43.14で、最少は吉野保健所の23.50であった。過去10年間の月別平均報告数をみると、冬から夏前にかけて報告が集中し、ほぼ同数で推移する幅広いピークとなっているが、本年は5月が最多で4.54、次いで12月が4.06と 昨年同様に二峰性ピークを示した。年齢別の報告数では、最多は2歳の225例、次いで3歳216例、1歳193例、4歳149例と続き、以後漸減するが、6歳までの未就学児で90%を占めた。

(橋本 和子 記)

7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

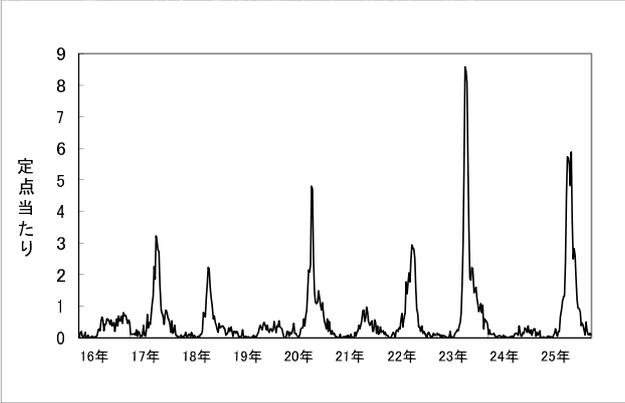


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

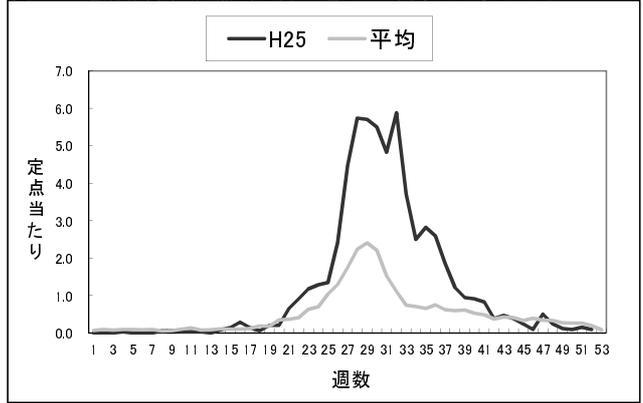


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

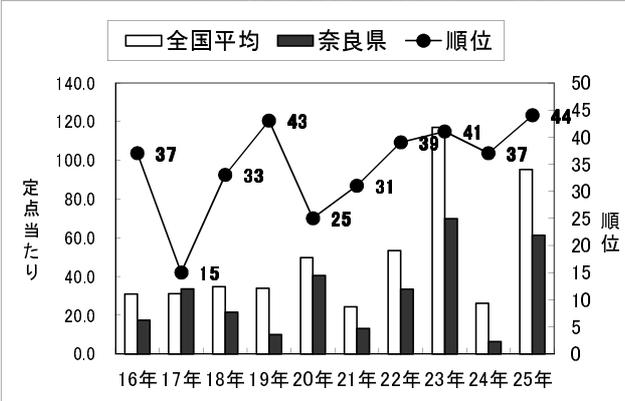


図 7-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

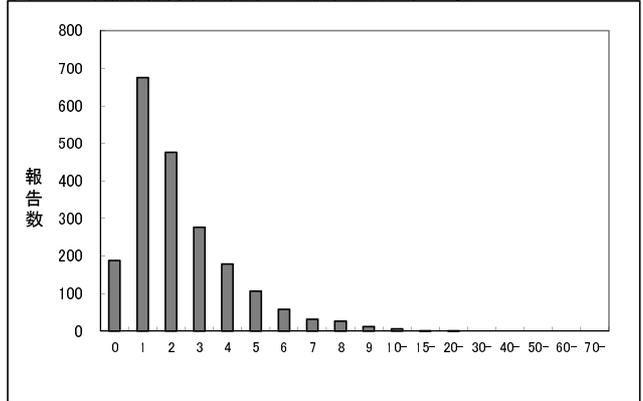


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

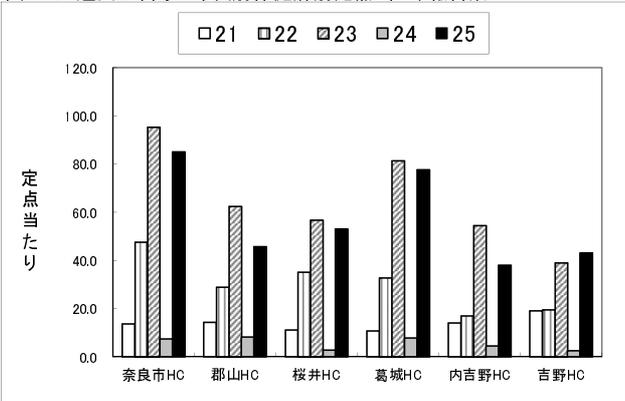
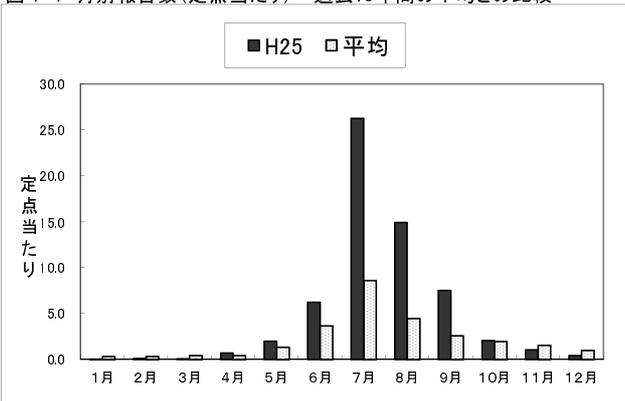


図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成25年における全報告数は2092例、定点当たりの報告数は61.33で、昨年と比較すると一転し、過去10年間で最多だった平成23年の69.83に迫る勢いでの増加となった。過去10年間の定点当たりの報告数をみると、2～3年周期で流行しており、流行時の定点当たりの報告数は、大流行した平成23年の69.83を除き、例年ほぼ30～40台であった。

都道府県別に定点当たりの報告数をみると、奈良県は全国順位44位だった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、奈良市、葛城両保健所が、順に85.00、77.57と突出していた。次いで桜井保健所:53.00、郡山保健所:45.66で、吉野保健所が43.00と続き、最少でも内吉野保健所で38.00だった。各保健所とも大流行した平成23年と、ほぼ同数からやや下回っていた。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、例年は、ほぼ5月から9～10月にかけて集中し、7月にピークを向かえる一峰性の分布をしていた。本年においては、流行しはじめる5月以降、報告数(定点当たり)が著しく増加し続け、ピーク時における報告数(定点当たり)は、例年のほぼ3倍に当たる報告数(定点当たり)であった。特に、24～40週前後における定点あたりの報告数の増加が著しかった。

年齢別での報告数(実数)をみると、1歳(675例)～2歳(476例)をピークとした一峰性の分布は例年と変わりなく、この年代で全体の60%弱を占めていた。次いで3歳が277例で、0歳188例、4歳179例、5歳107例と続き、ほぼこれらの小学校就学前の年代が全体の90%強を占めていた。なお、10歳以上の年代でも、散発的な報告が認められていた。

(村井 孝行 記)

8. 伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

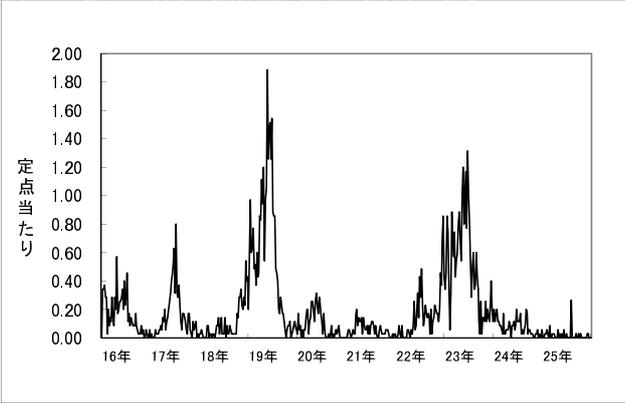


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

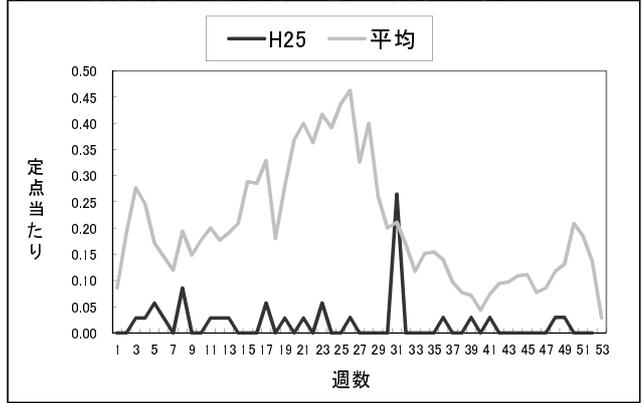


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

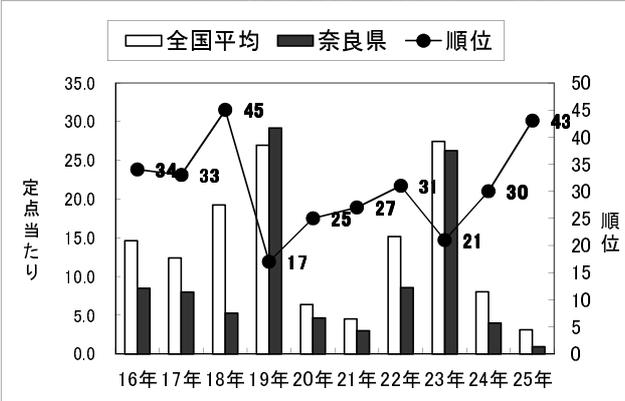


図 8-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

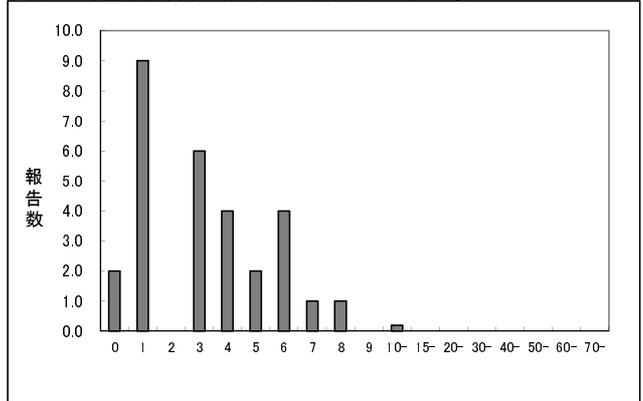


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

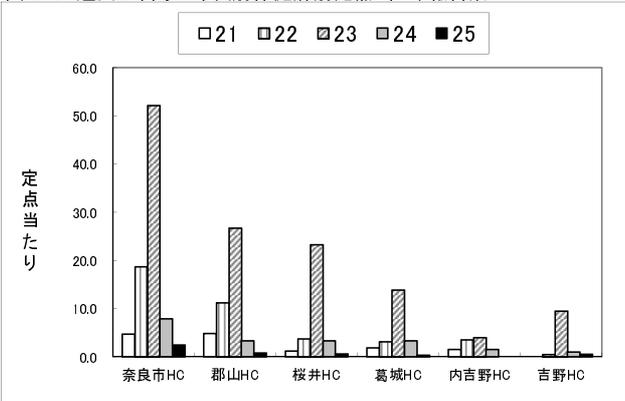
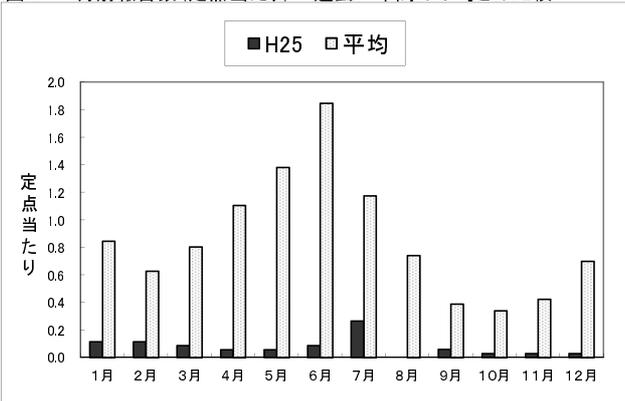


図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成25年における全報告数は32例、定点当たりの報告数は0.92と、過去10年間で最少であった。定点当たりの報告数で見ると、4～5年周期で流行しており、流行時の平成19年が29.17、昨年が26.67となっており、例年は3.00～8.00の間を推移していた。

都道府県別に定点当たりの報告数を見ると、奈良県は全国順位43位だった。

全報告数が少ないが、保健所別に定点当たりの報告数を見ると、奈良市保健所が2.43と最多で、例年通りではあった。以下、参考程度ではあるが、郡山保健所(0.80)、桜井保健所(0.57)、葛城保健所(0.29)、吉野保健所(0.50)が1.00を下回っており、内吉野保健所は0だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数を見ると、例年は年間通して報告はあるものの、年始から増加しだし6月頃にピークに達した後、秋場にかけて減少していく分布をしていたが、平成25年は全報告数が少なかったにも関わらず、例年通りの傾向が少なからず認められていた。

年齢別の報告数(実数)を見ると、全報告数が少ないためか、最も多いとされる5～9歳の年代での報告数(計8例)が少なく、この年代と入れ代わって0～4歳の年代の報告数(計21例)が多くなっていた。特に、0～1歳の新生児・乳児での年代での報告数が、計11例と最多だった。

(村井 孝行 記)

9. 突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

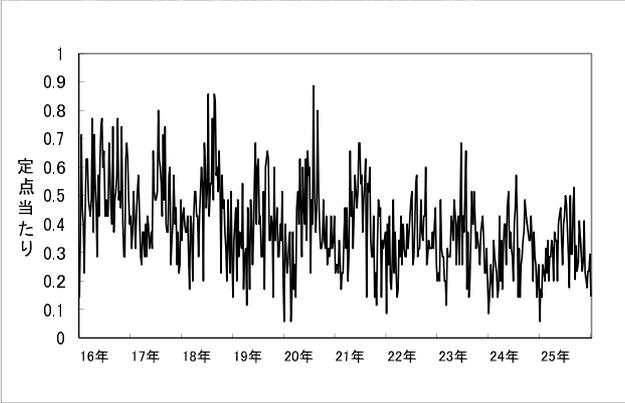


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

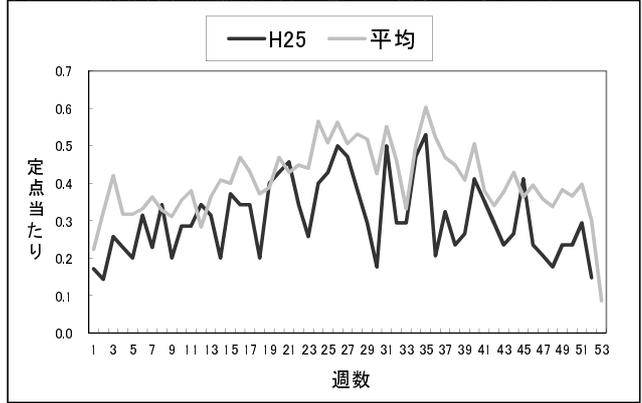


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

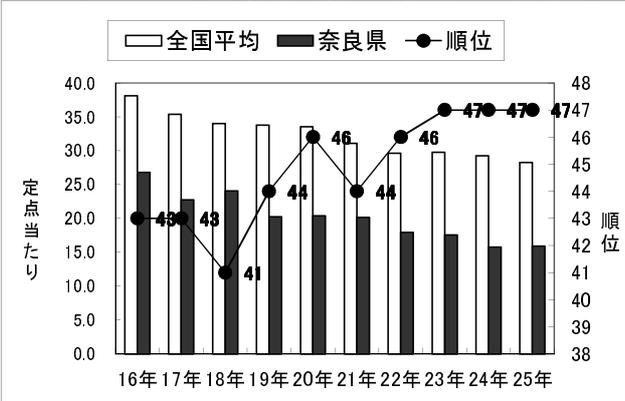


図 9-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

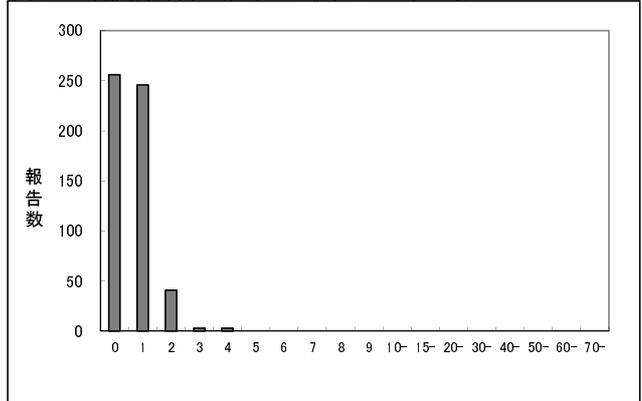


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

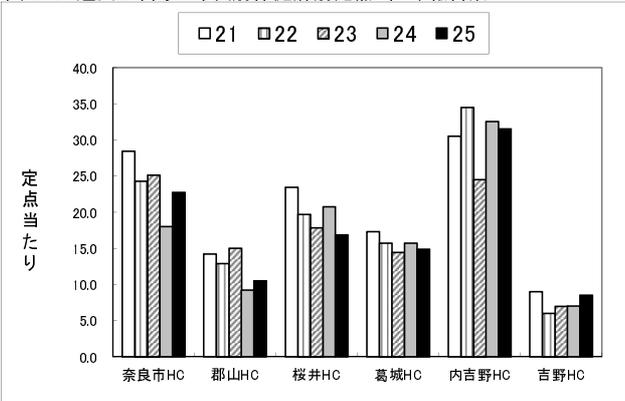
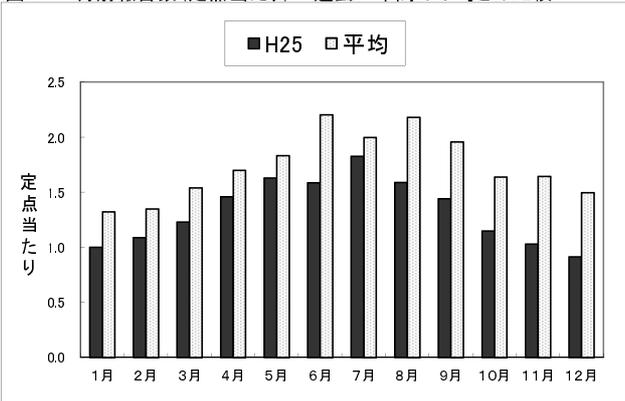


図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成25年における全報告数は549例、定点当たりの報告数は15.93だった。

過去10年間の定点当たりの報告数で見ると、平成16年以降に右肩下りの減少傾向が認められており、全国的にみてもほぼ同様であった。また、平成25年については、昨年の15.77とほぼ同数の15.93であった。

道府県別に定点当たりの報告数をみると、奈良県は全国順位47位と、ここ数年間では変動はなかった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、内吉野保健所が31.50と最多で突出しており、奈良市保健所が22.71となっていた。次いで、桜井保健所が16.86、葛城保健所が14.86とほぼ同数で、続いて郡山保健所が10.50、吉野保健所が8.50と最少であった。また、ほぼ同様の傾向が例年見られていた。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数を見ると、例年は、梅雨時期の6月から夏場の7～8月をピークとする一峰性の分布ではあるが、年中通して報告されていた。本年においては、このピーク時以降の報告数(定点当たり)が、過去10年間の平均報告数と比べ減少していた。特に、36～39週、42～45週と46～51週にかけての減少が目立った。

年齢別での実数報告数を見ると、0歳(256例)と1歳(246例)をピークとした極端な右肩下りの分布で、2歳で41例の報告があるが、以降の年代での報告は散発的で、5歳以上での報告数は全くなかった。なお、0歳と1歳でほぼ全体の90%強を占めていた。

(村井 孝行 記)

10.百日咳

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

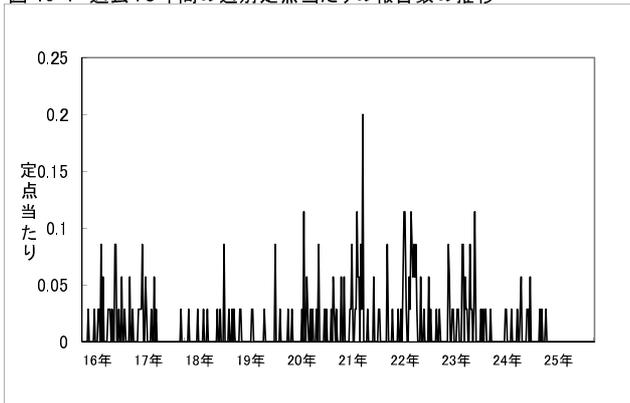


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

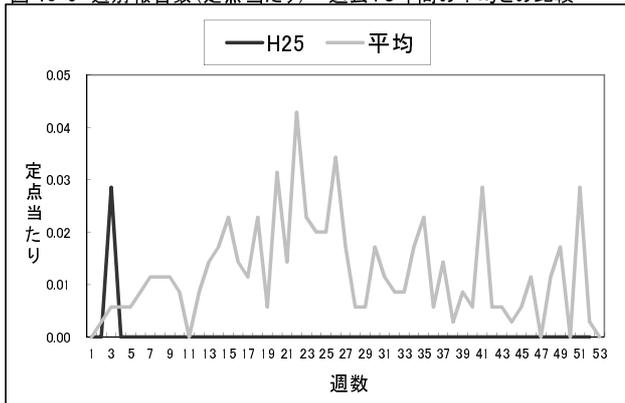


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

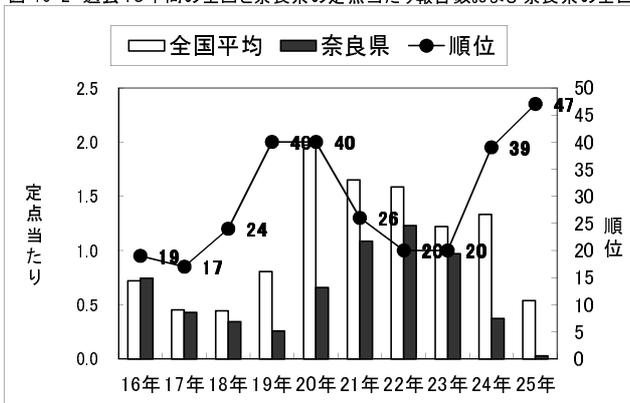


図 10-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

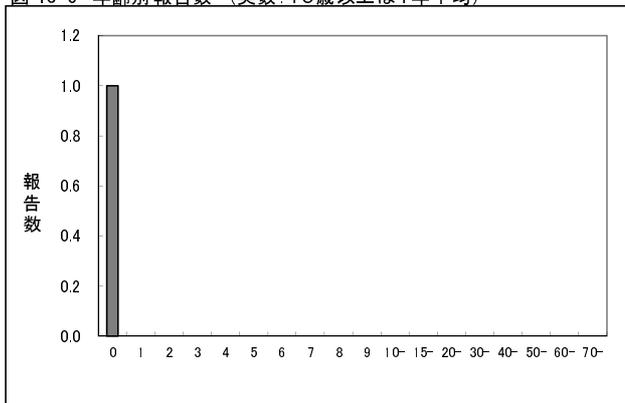


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

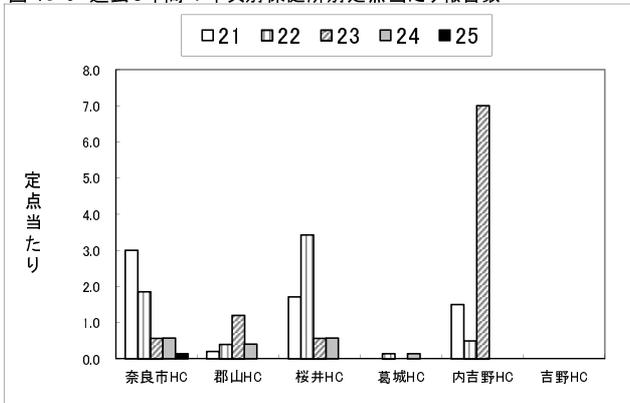
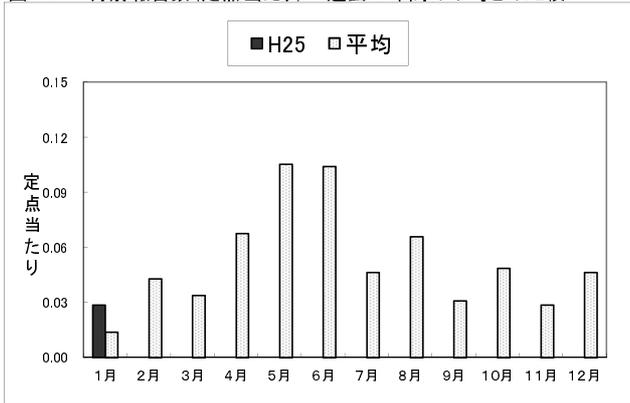


図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H25の奈良県の報告数は1人のみ(定点当たり0.03)で、H25第3週(=1月)に報告された奈良市の0歳の症例であった。
過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移(図10-1)は、H20-H23において4年連続で0.1を超える週が出現していたが(最多はH21第26週:0.20)、H25は0.2を超えたのが1回のみ(第33週:0.21)という過去10年間での最低水準であった。
過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位(図10-2)は、H25が全国の0.54に対し奈良県は0.03で、全国順位は47位と最下位であった。
過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数(図10-3)は、H25は奈良市のみであった。内吉野は直近2年連続、吉野は5年連続報告がなかった(=共に南和2次医療圏)。
月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図10-4)は、10年平均では5月(0.11)が最多で、1月(0.01)が最少であった。一方、H25は1月(0.03)が最多であった。
週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図10-5)は、最多報告数の週が10年平均では第22週(0.04)であったが、H25では第3週(0.03)であった。
年齢別報告数(図10-6)は、0歳の1人のみであった。

(柳生 善彦 記)

11.ヘルパンギーナ

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

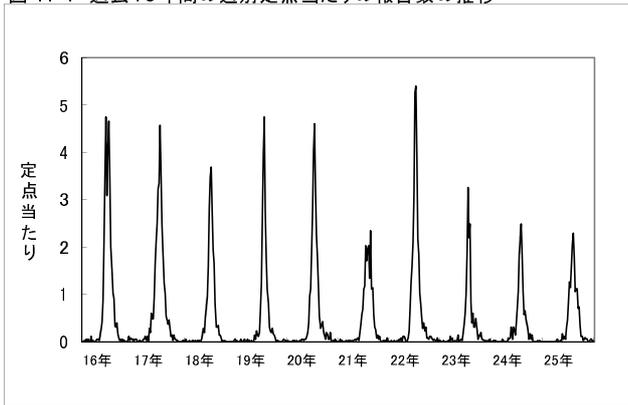


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

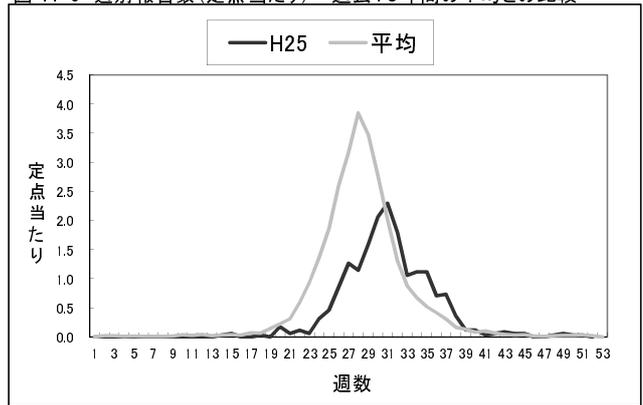


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

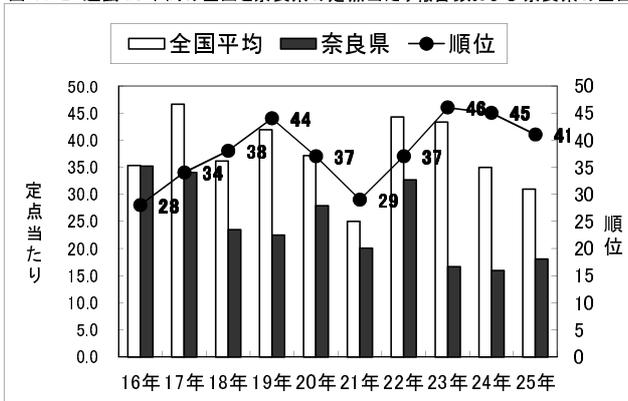


図 11-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

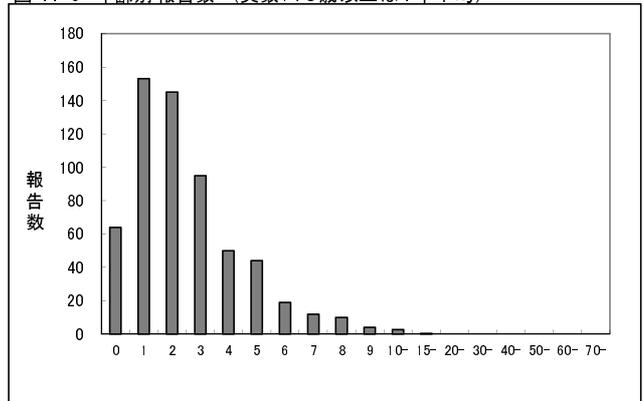


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

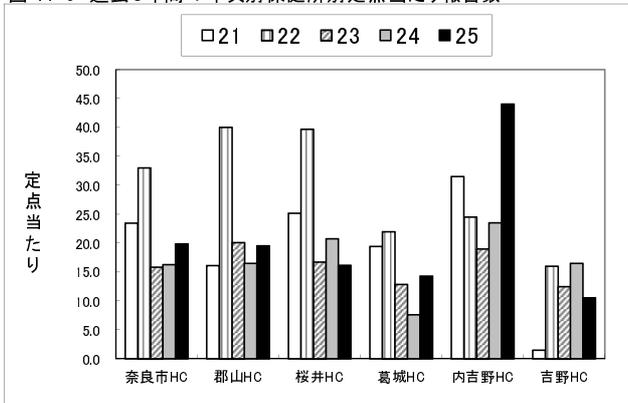
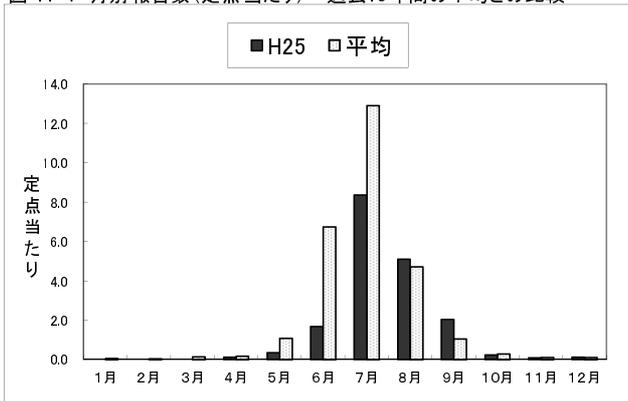


図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H25の奈良県の報告数は615人(定点当たり18.1)であった。過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移(図11-1)は、例年、年間最多報告数の週が一峰性あるいはそれに近似したピークとして明瞭に顕れている。その値(=ピーク値)が最も高かったのはH22第27週(5.40)であった。一方、最も低かったのはH25第31週(2.29)で、その次がH21第34週(2.34)であった。

過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位(図11-2)は、全国平均がH22から3年連続の減少。一方、奈良県はH24(15.91)(45位)に比べてH25(18.01)(41位)の増加を認めた。

過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数(図11-3)は、H25では多い方から①内吉野(44.00)、②奈良市(19.86)、③郡山(19.50)、④桜井(16.14)、⑤葛城(14.29)、⑥吉野(10.50)の順であった。また、同一保健所における推移では、H24に比べH25で増加を認めたのが内吉野、葛城、奈良市、郡山で、逆に減少であったのが吉野、桜井であった。

月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図11-4)は、10年平均では最多が7月(12.89)で、次が6月(6.76)であった。H25では最多は同じく7月(8.35)であったが、次は8月(5.09)であった。

週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図11-5)は、最多であった週は10年平均では第28週(3.85)、H25では第31週(2.29)であった。

年齢別報告数(図11-6)は、0歳が64人。1歳が153人で最多。2歳が145人で、以下3歳(95人)～9歳(4人)と、年齢が高くなると共に漸減傾向であった。

(柳生 善彦 記)

12.流行性耳下腺炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

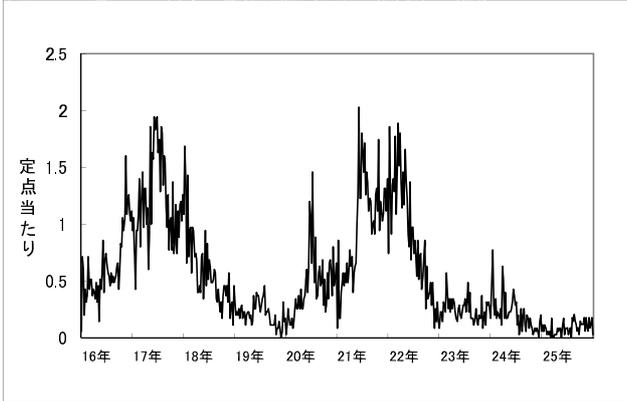


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

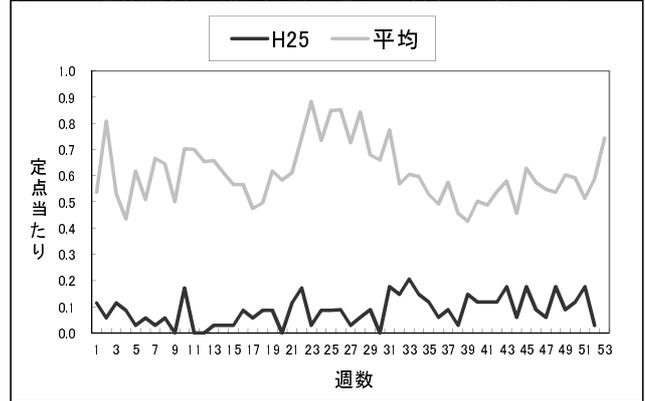


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

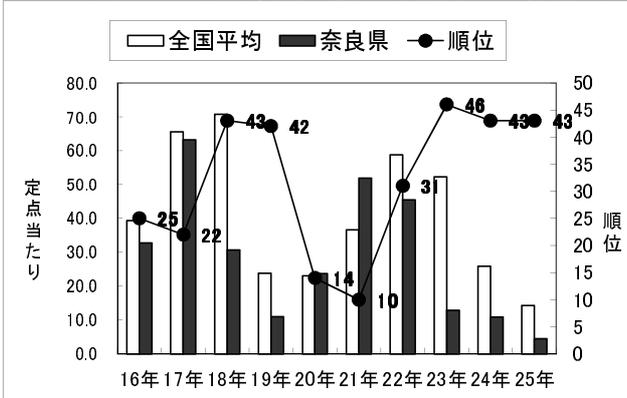


図 12-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

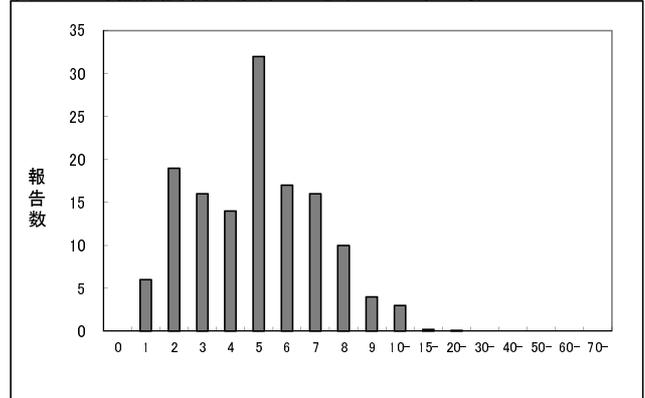


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

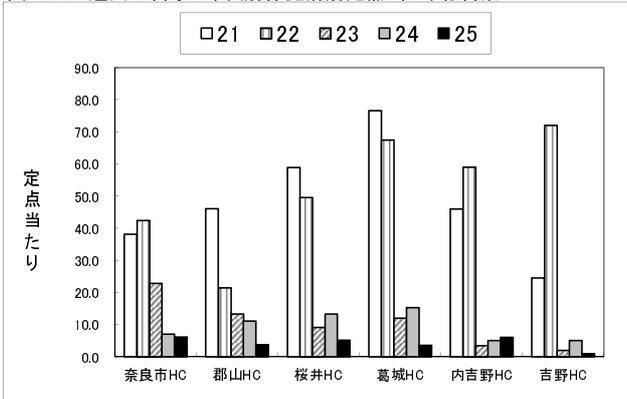
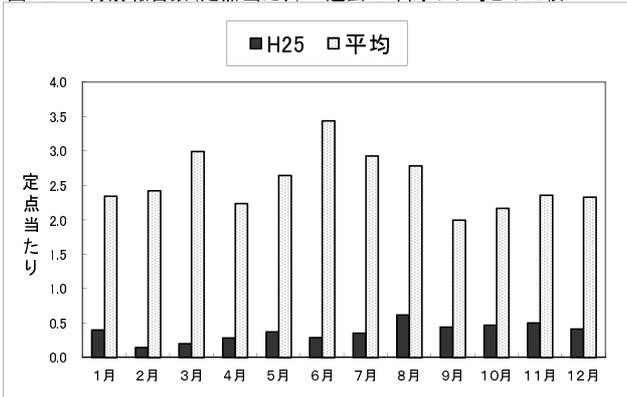


図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H25の奈良県の報告数は154人(定点当たり4.48)であった。過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移(図12-1)は、数年毎のサイクルを形成している様に見て取れる。H25は、0.2を超えたのが1回のみ(第33週:0.21)という、過去10年間での最低水準であった。過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位(図12-2)は、全国平均においてはH23から3年連続の減少。一方、奈良県はH22から4年連続の減少で、直近の2年でもH24(10.86)からH25(4.48)へと減少であったが、全国順位はいずれも43位であった。過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数(図12-3)は、H25では多い方から①奈良市(6.14)、②内吉野(6.00)、③桜井(5.14)、④郡山(3.70)、⑤葛城(3.57)、⑥吉野(1.00)の順であった。また、同一保健所における推移では、内吉野のみ2年連続の増加を認めたが、他の5保健所では全てH25が過去5年間での最少報告数であった。月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図12-4)は、10年平均では最多が6月(12.89)で、最少が9月(1.99)であった。一方、H25では最多が8月(0.62)で、最少が2月(0.14)であった。週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図12-5)は、全ての週でH25が10年平均を下回っていた。10年平均では最多が第23週(0.88)で、最少が第4週(0.43)及び第39週(0.43)であった。一方、H25では最多が第33週(0.21)で、最少が第9週(0.00)、第12週(0.00)、第20週(0.00)及び第30週(0.00)であった。年齢別報告数(図12-6)は、5歳(32人)が最多で、次が2歳(19人)であった。6歳以降は年齢が高くなると共に漸減傾向であった。

(柳生 善彦 記)

13.急性出血性結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

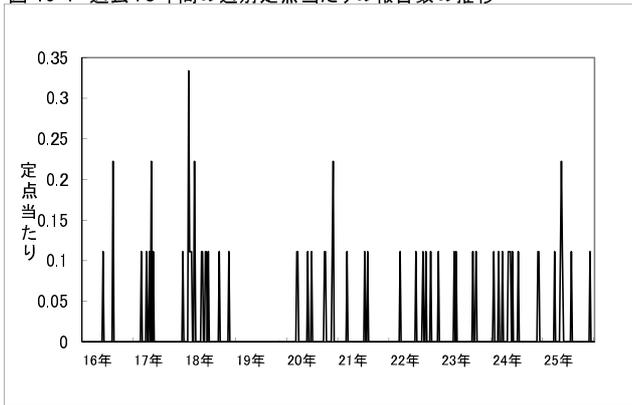


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

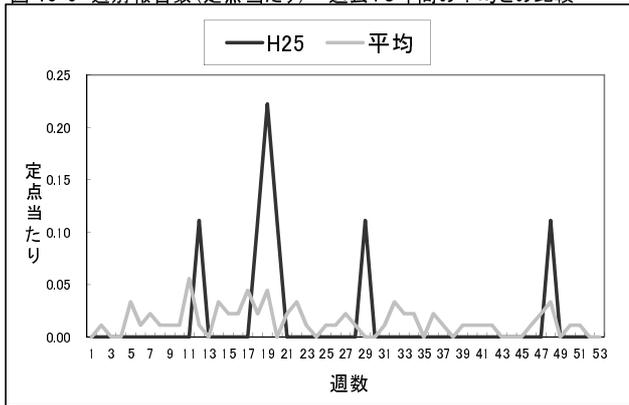


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

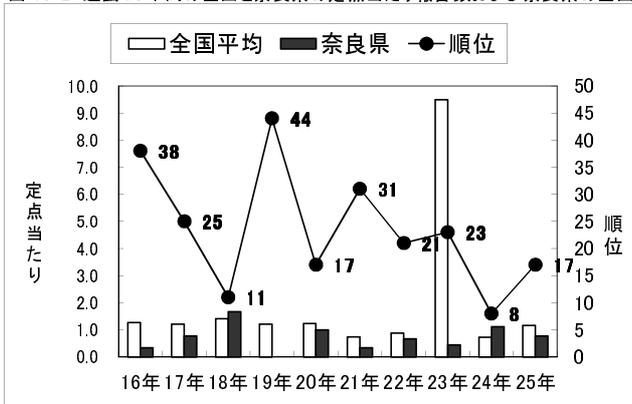


図 13-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

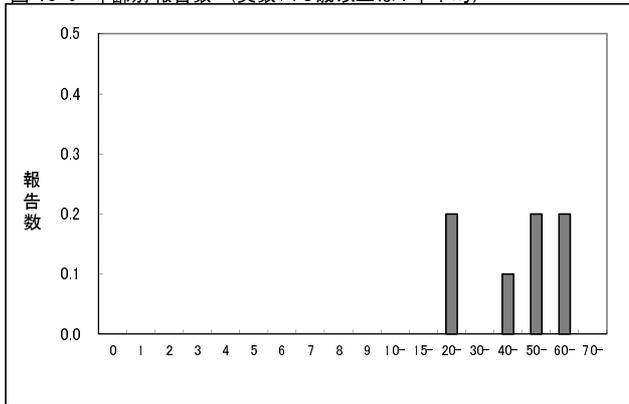


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

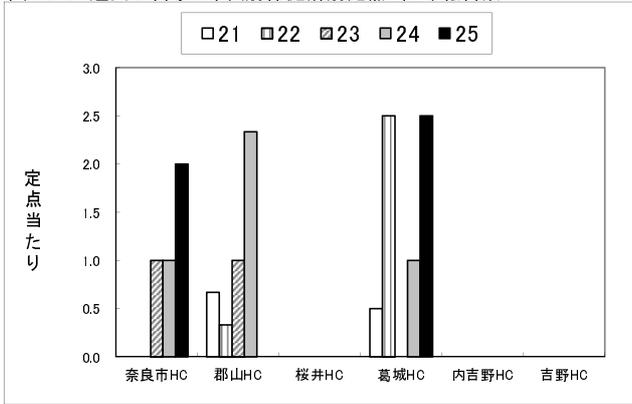
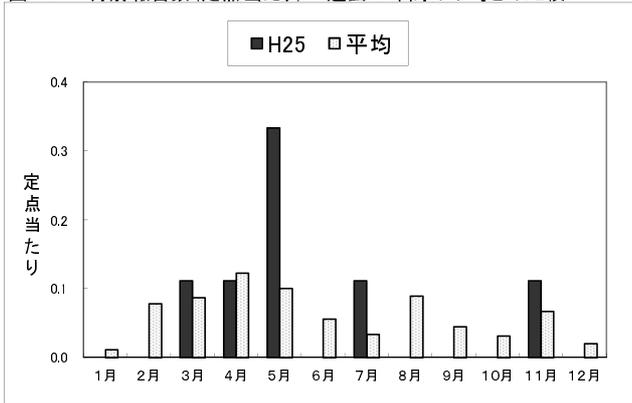


図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体で7例の報告があり、時期は12週に1例、18,19,20週に各1,2,1例、29週に1例、48週に1例であった。5月初旬の4例以外は散発的な発症と考えられた。発症は全例成人であった。地区別では奈良と葛城で発症をみた。全国と比較すると、定点あたりの報告数は3程度、17位前後の順位で推移している。

(平井 宏明 記)

14.流行性角結膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

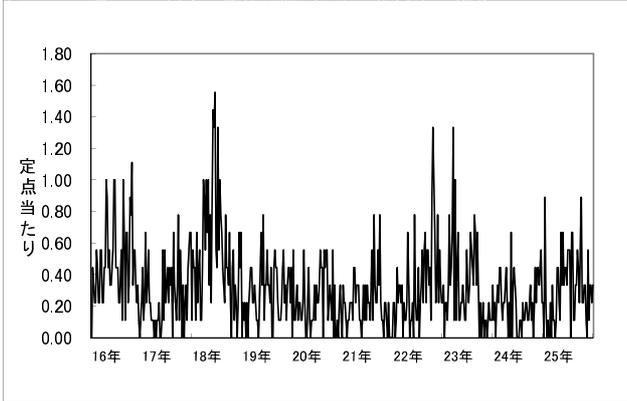


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

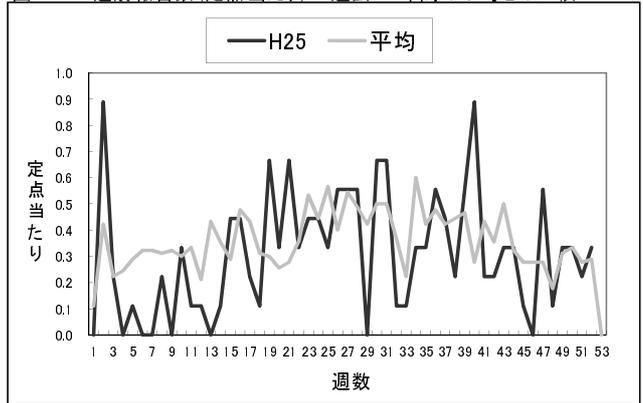


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

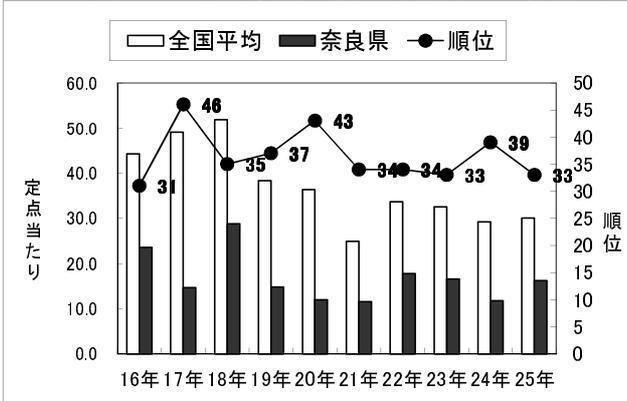


図 14-6 年齢別報告数(実数:10歳以上は1年平均)

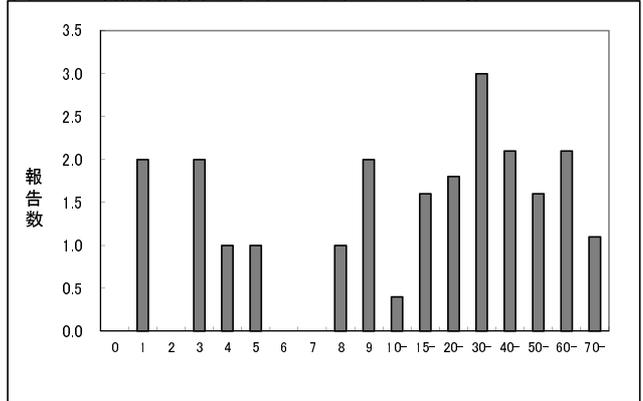


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

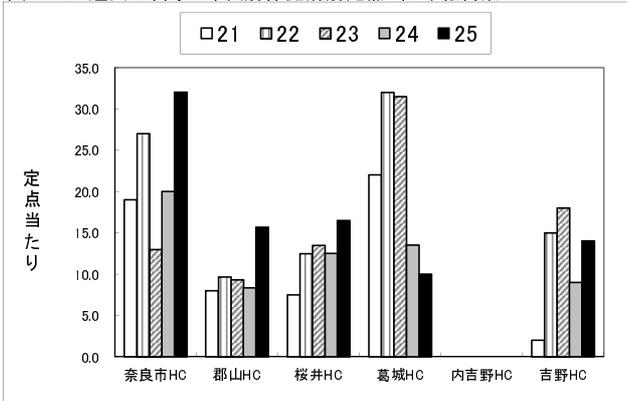
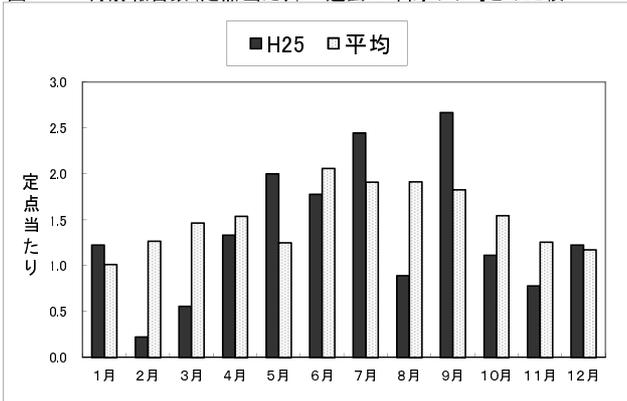


図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では146例の報告があった。2月を底に増加していき、寒くなるとともに減少してゆくのは例年と同じであった。ただし25年度は1月にも多数の発症を見た点が例年と異なっていた。すべての保健所で発生が認められるが、定点あたりの報告数では奈良市が多く、郡山、桜井、吉野がその1/2程度で続き、葛城が1/3程度であった。各年齢で認められるが、30歳台が最多であった。全国と比較すると、定点あたりの報告数は全国平均の約1/2程度で33位であった。

(平井 宏明 記)

16. 無菌性髄膜炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

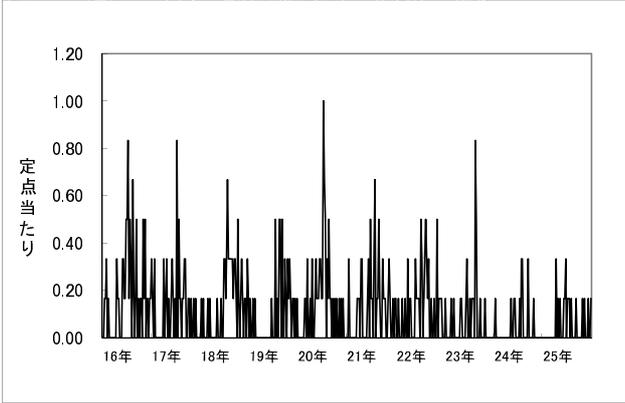


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

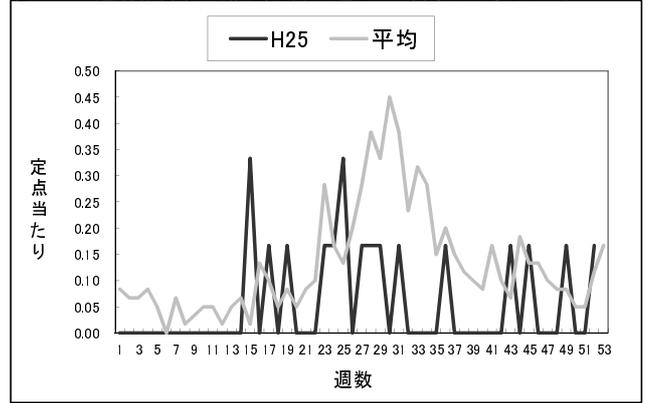


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

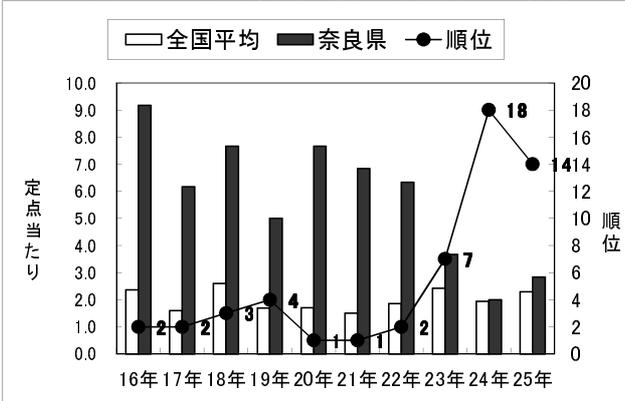


図 16-6 年齢別報告数(実数:10歳以上は1年平均)

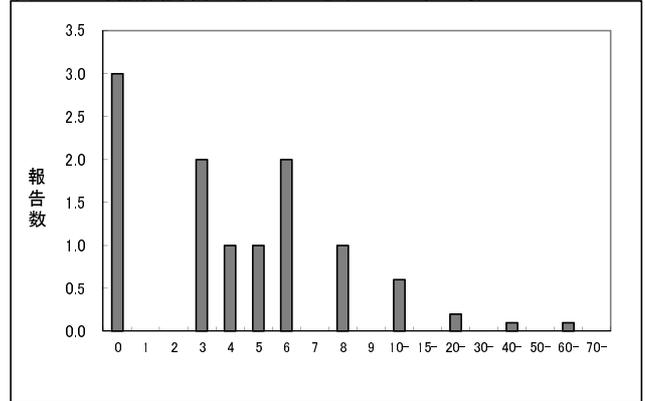
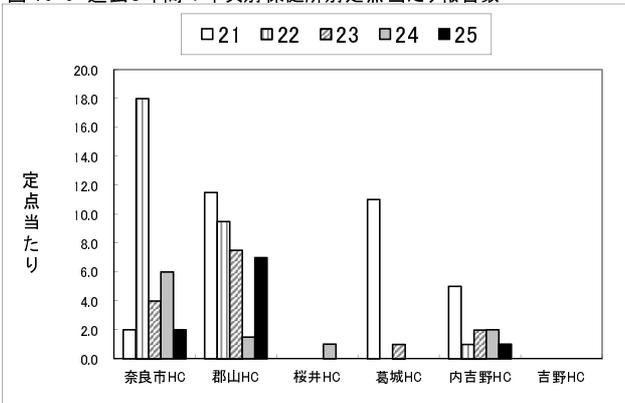


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

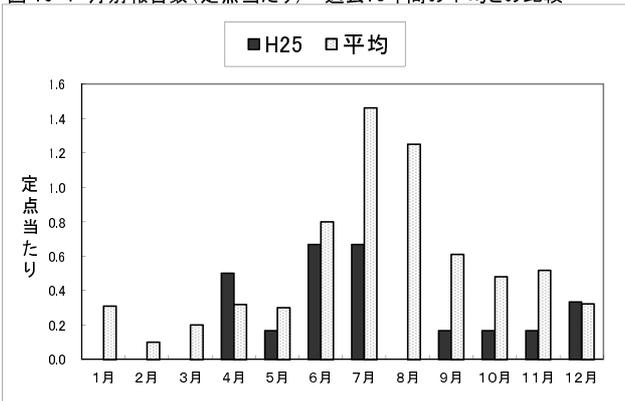


コメント

平成25年の全報告数は17例で、定点あたりの報告数は2.83であった。例年、本県は無菌性髄膜炎が全国平均と比較し高く、順位も一桁台であったが、徐々に減少傾向にあり、24年は報告数も減り順位も大きく下がっていた。しかし25年は、定点あたり報告数の若干の増加と全国順位の悪化がみられた。
24年に比べ、0歳児の報告数が多く、夏季のエンテロウイルスの流行によるもの他に、ヘルペスウイルスを原因とする無菌性髄膜炎の発症がみられた可能性がある。

(矢野 寿一 記)

図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



17.マイコプラズマ肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

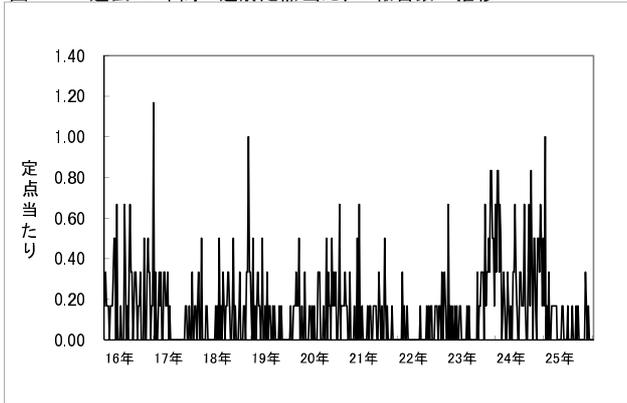


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

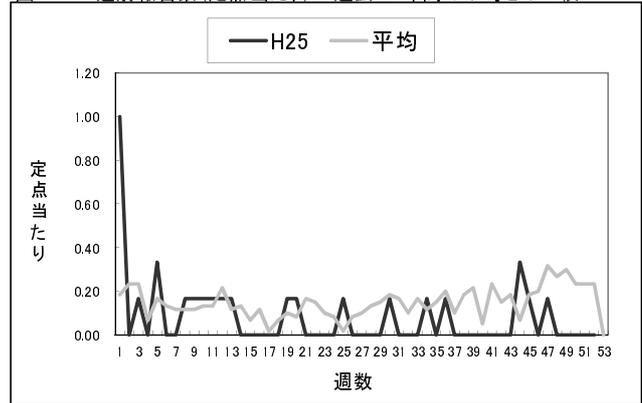


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

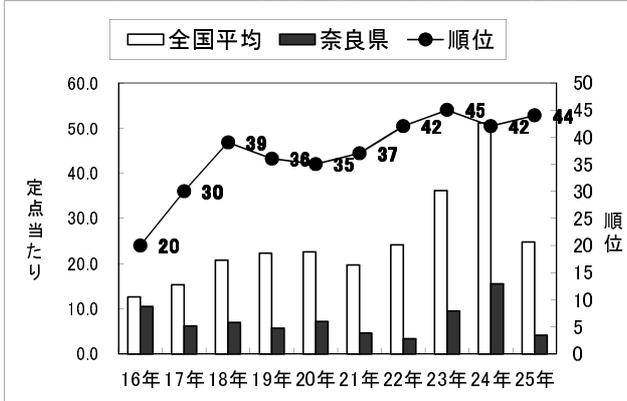


図 17-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

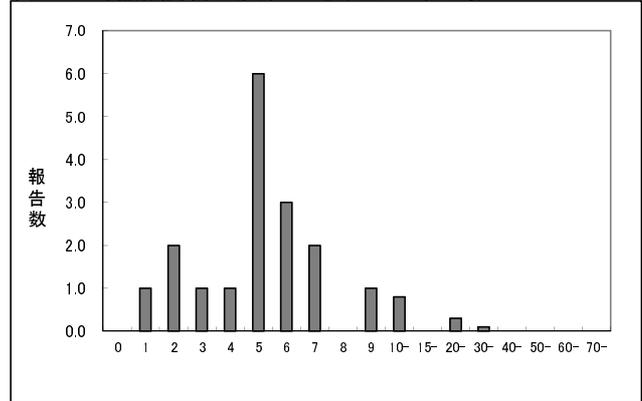
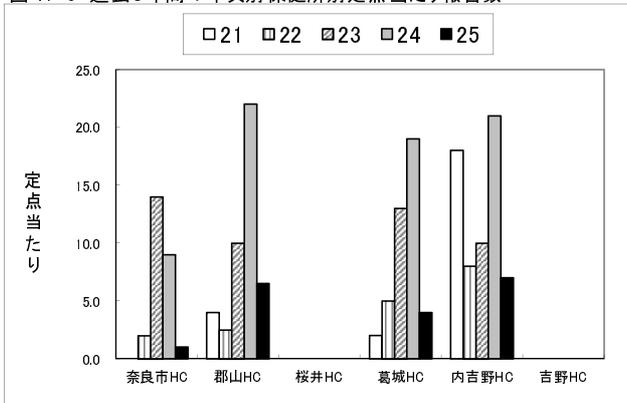


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

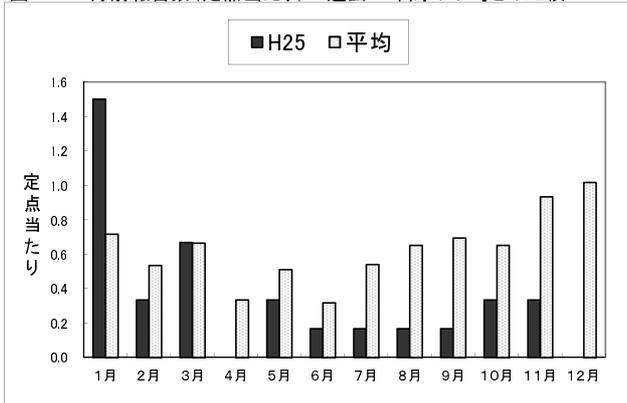


コメント

平成25年における全報告数は25例、定点あたりの報告数は4.17で、昨年と比較して大幅な減少となった。全国的にもマイコプラズマ肺炎は大きく減少している。本県は全国と比較して、例年マイコプラズマ肺炎の報告数は低いですが、本年も44位とその傾向が見られた。昨年のマイコプラズマ肺炎の増加は、マクロライド耐性マイコプラズマの出現が一因といわれてきた。近年、小児に使用できるキノロン系薬が販売されたことから、今後はフルオロキノロン耐性マイコプラズマの出現も予想されており、本年は件数が減少したとは言え、今後の動向に注意が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



18. クラミジア肺炎

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

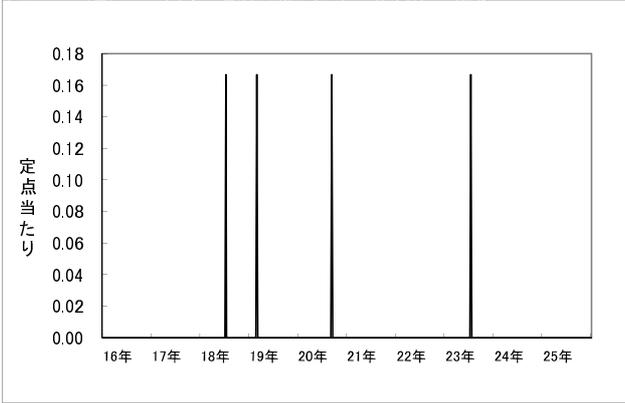


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

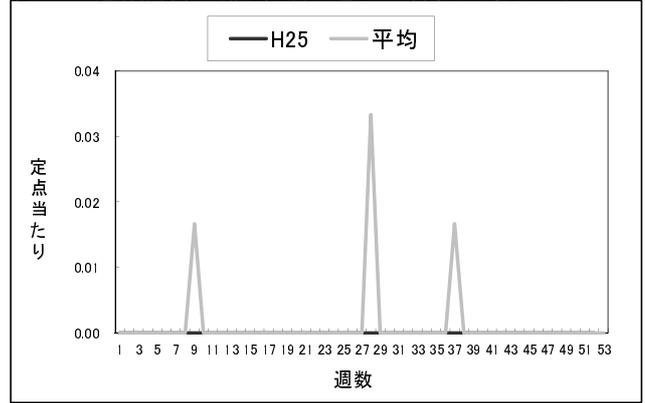


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

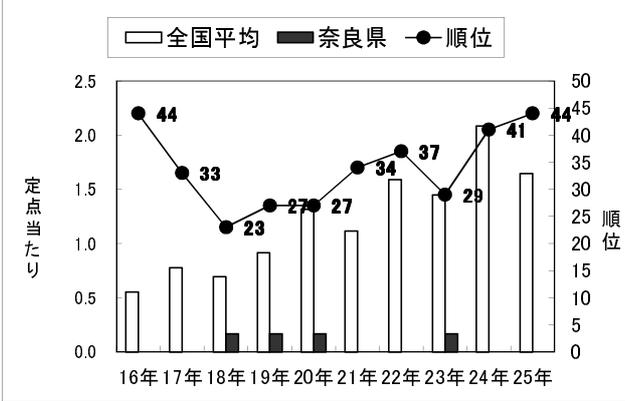


図 18-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

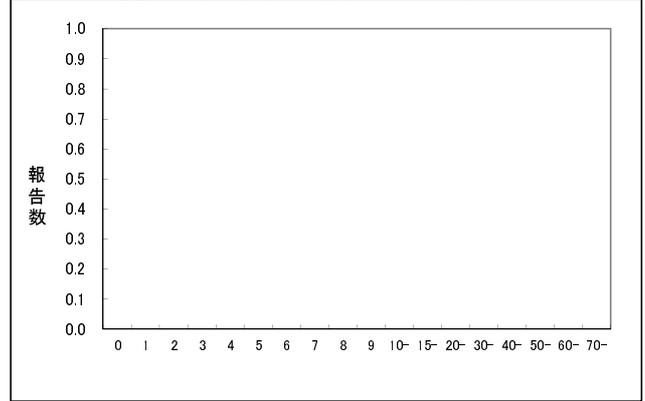


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

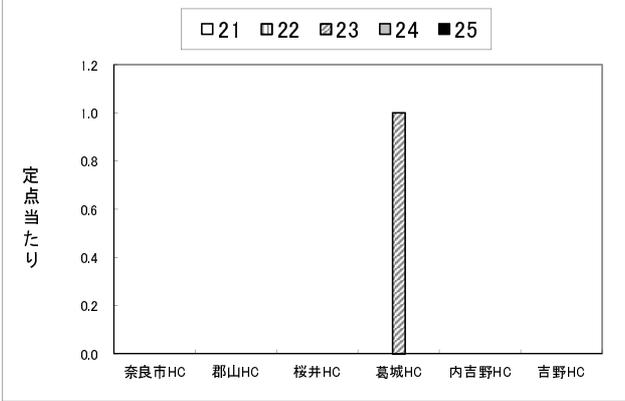
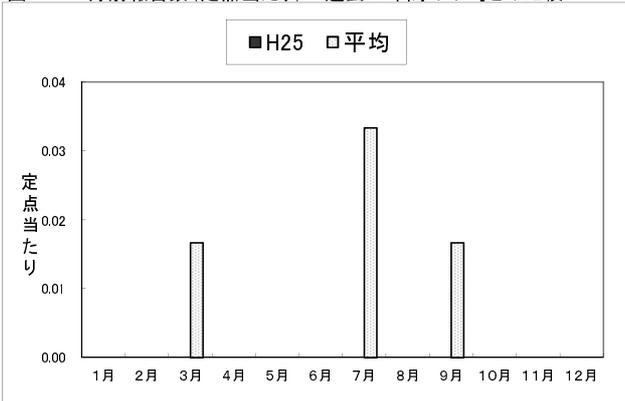


図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

クラミジア肺炎は、平成24年に引き続き、奈良県では報告はみられなかった。しかし、クラミジア肺炎は、急性期における診断が難しいため、隠れたクラミジア肺炎が存在する可能性も考えられる。
(矢野 寿一 記)

19. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 19-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

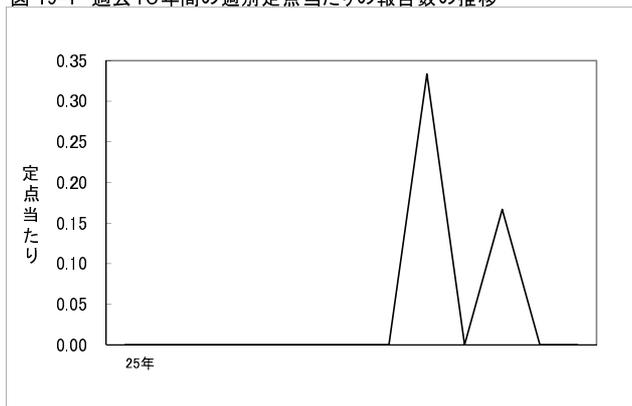


図 19-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

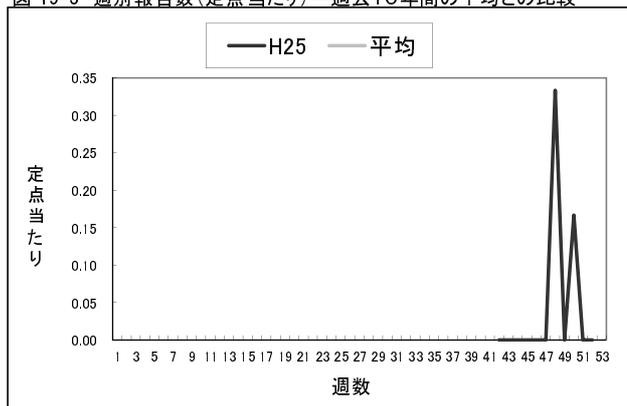


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

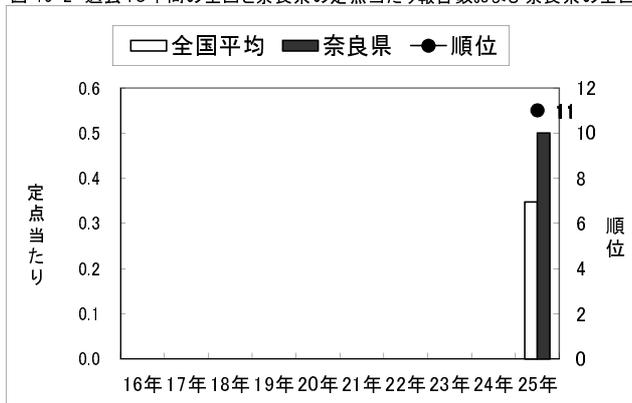


図 19-6 年齢別報告数 (実数:10歳以上は1年平均)

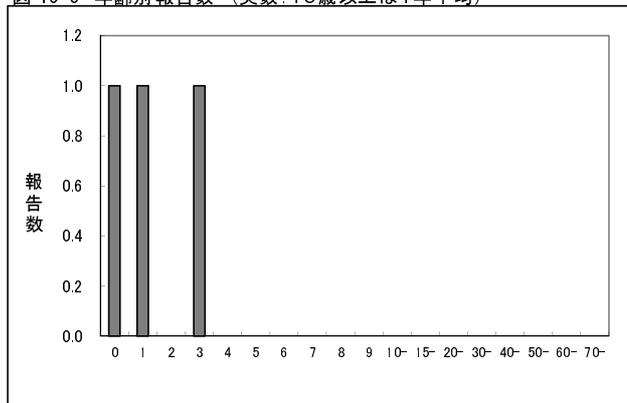
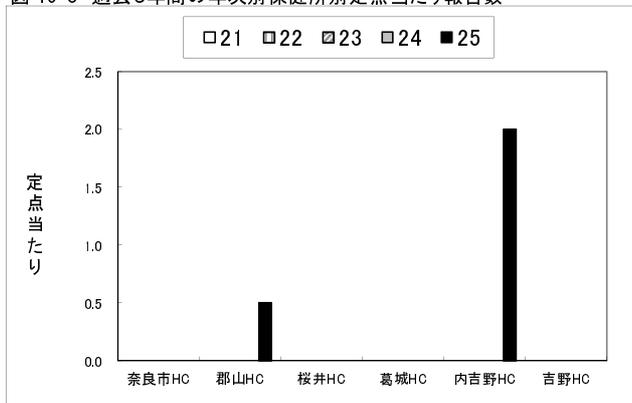


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

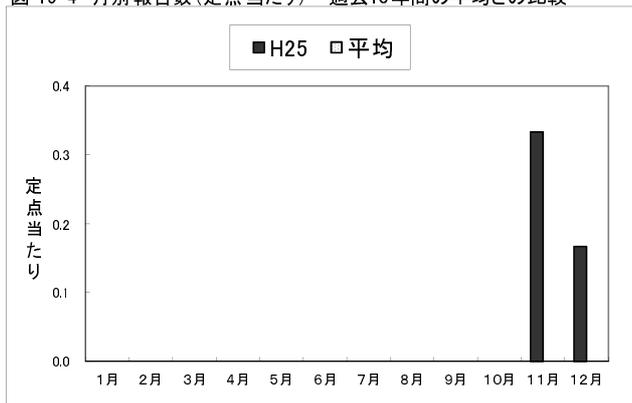
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)施行規則の一部の改正にともない、平成25年10月14日(第42週)より基幹定点に指定された医療機関において、ロタウイルスによる感染性胃腸炎と診断された症例(迅速診断キットによる病原体の抗原の検出)が、届出の対象(定点把握対象疾患5類感染症)となった。

平成25年においては、上記の様に流行期前の第42週からの報告であり、報告週数にも限りがあったため、郡山保健所管内基幹定点から1例、内吉野保健所管内基幹定点からは2例と、合計3例のみの報告であった。報告週は、第48週に2例、第50週に1例、また、年齢別報告数では、0、1、3歳がそれぞれ1例ずつの報告だった。

なお、基幹定点でかつ小児科定点にも指定されている医療機関においては、小児科定点としての感染性胃腸炎の届出も、必ず同時にいただるようにお願いしたい。

(村井 孝行 記)

図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



20.性器クラミジア感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

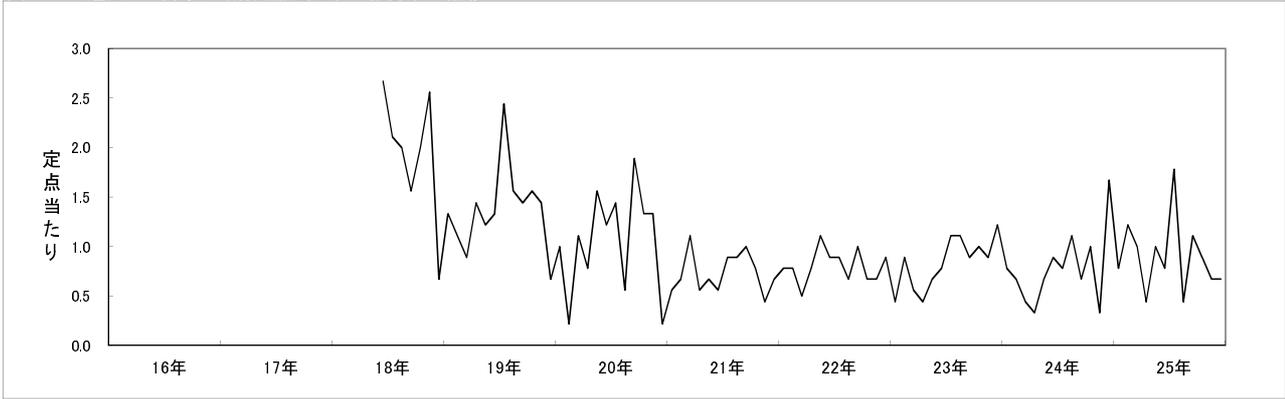


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

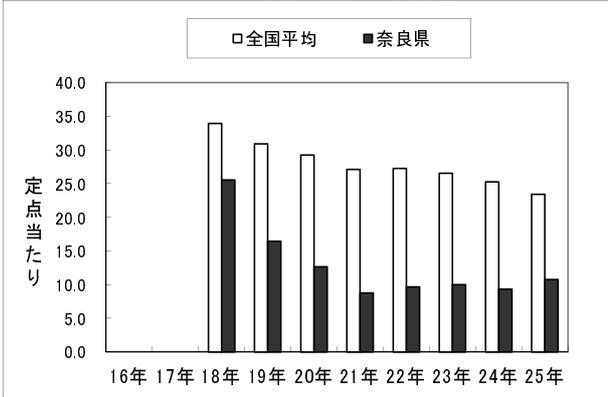


図 20-5 年齢別報告数（実数 10歳以上は1年平均）

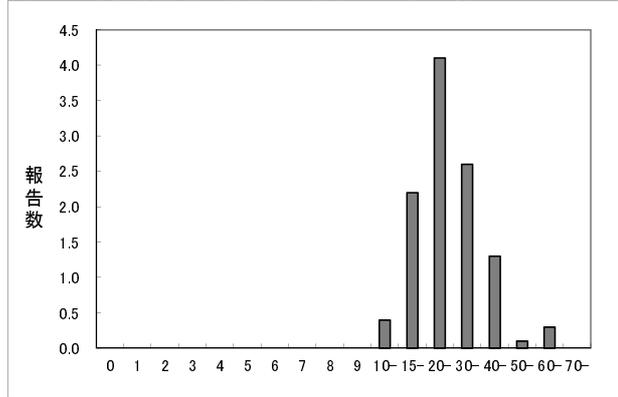
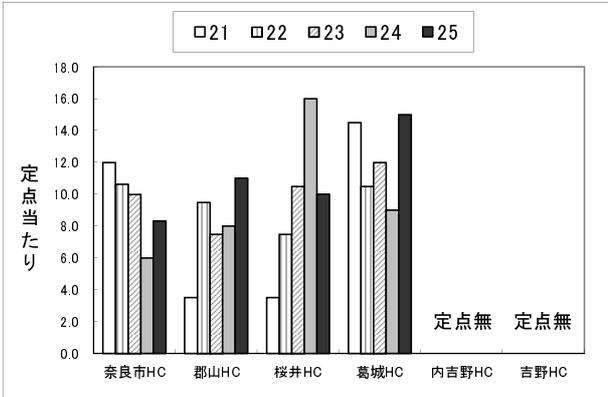


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

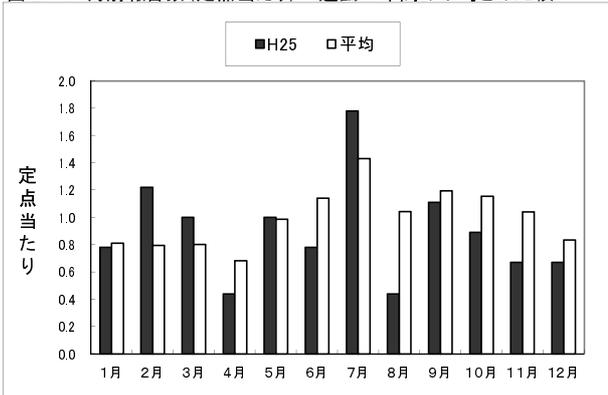


コメント

例年通り、STD4疾患の中では報告数が最多であった。全国の報告数が年々減少しているのに対して、奈良県では増加傾向にある。年齢別では、20歳代を中心に若年層が多いが、10歳代後半の増加が目される。地域別では、葛城HCでの増加著明であった。月別では、昨年に比較して冬場の報告数が著明に減少した。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



21.性器ヘルペスウイルス感染症

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

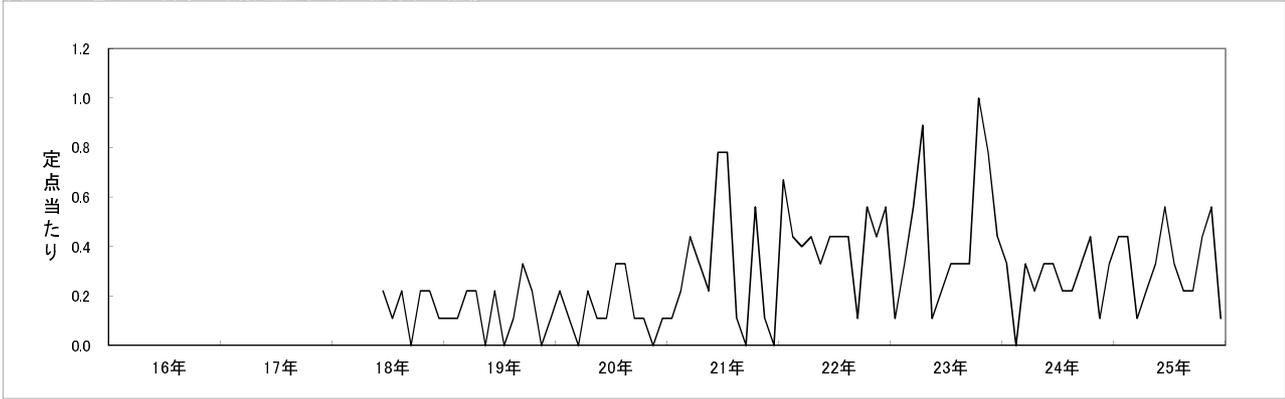


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

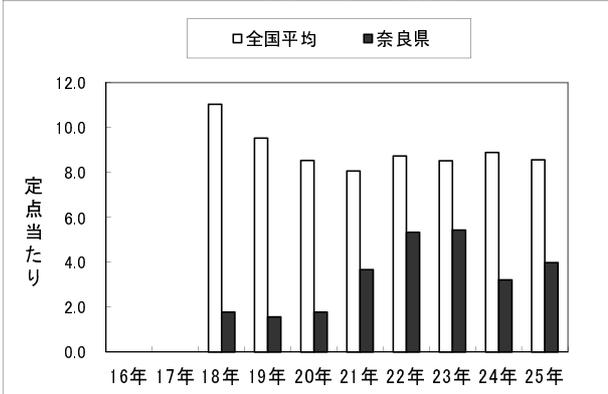


図 21-5 年齢別報告数（実数 10歳以上は1年平均）

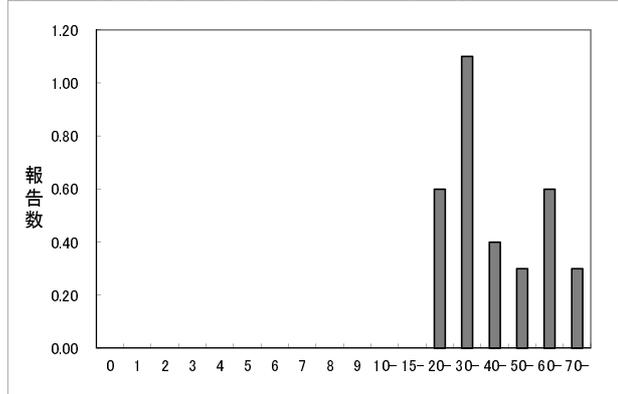
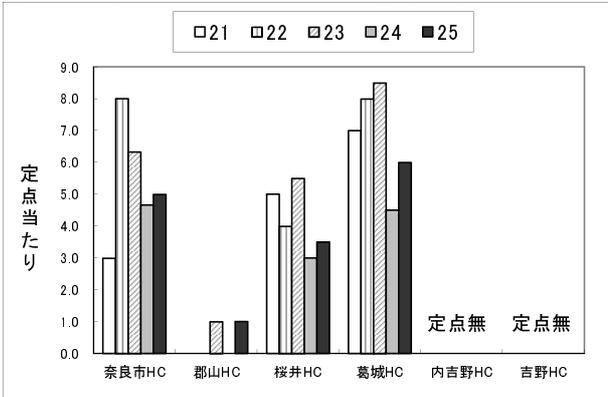


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

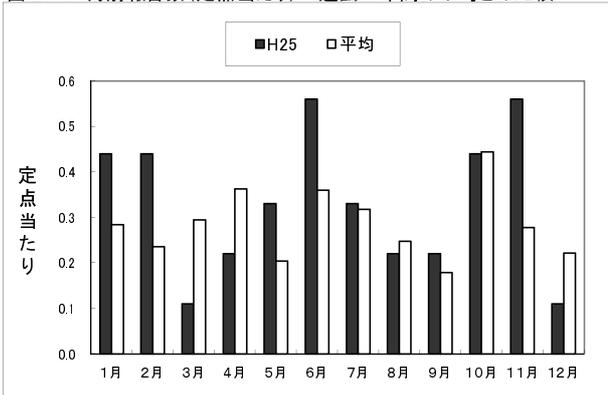


コメント

報告数は例年通りSTD4疾患の中で第3位であった。昨年より報告数が増加したが、過去最高であった平成22年、23年よりは少ない。他疾患と比較して60歳以上の高年齢層の報告が多いのが特徴である。地域別および月別では、ほぼ例年と同様であった。

(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



22.尖圭コンジローマ

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

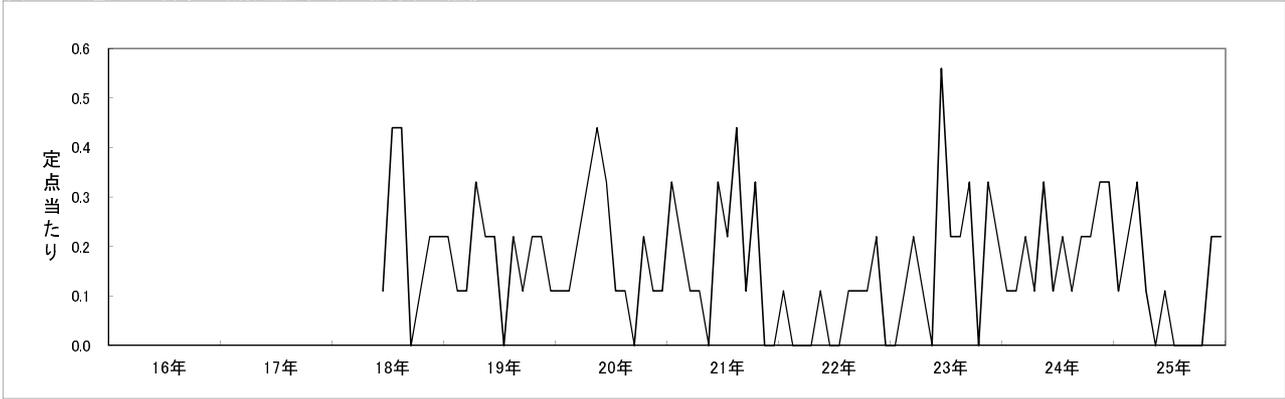


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

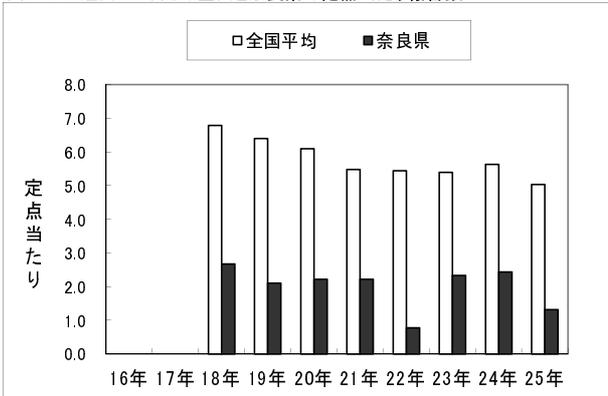


図 22-5 年齢別報告数（実数 10歳以上は1年平均）

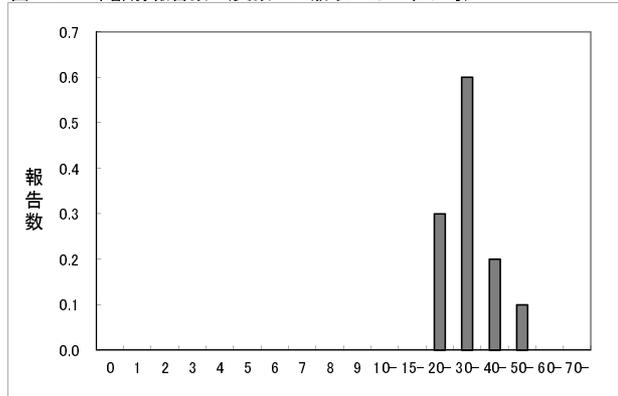
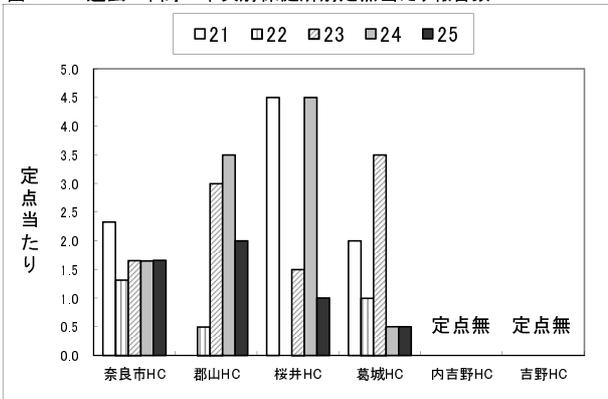


図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

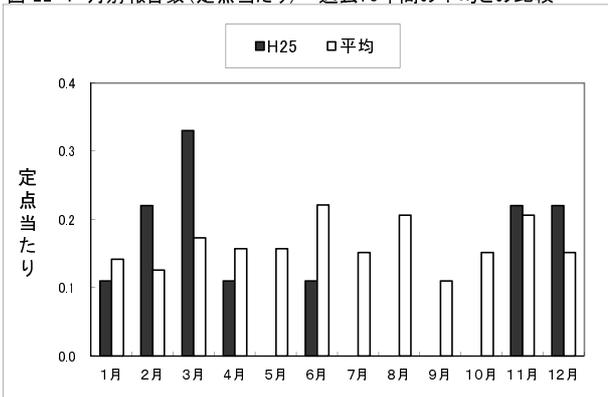


コメント

報告数はSTD4疾患の中で第4位で、平成23年、24年に比較して減少した。年齢別では、20歳代が減少し、30歳代が最多となった。地域別では、桜井HCの報告数が著明に減少した。月別では、5～10月の報告数が激減したのが特徴的であった。

(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



23.淋菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

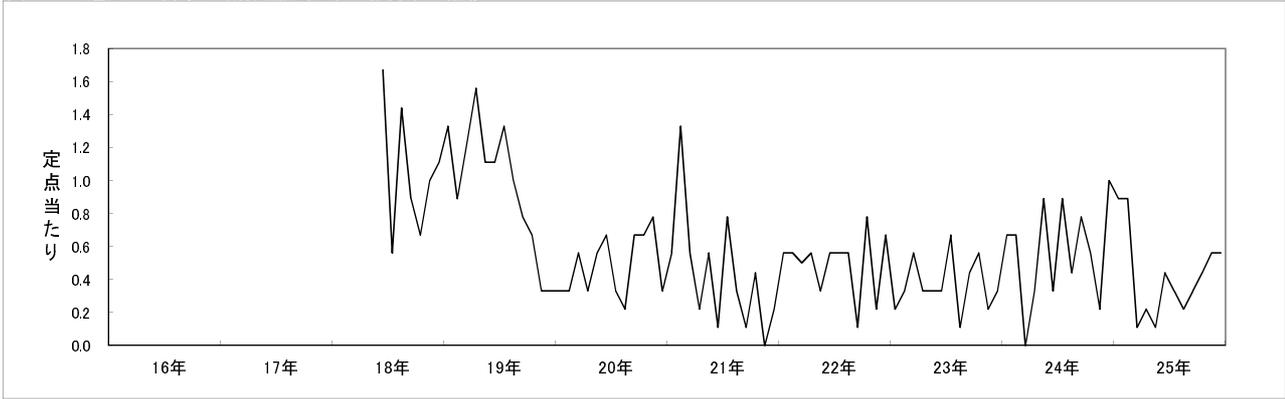


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

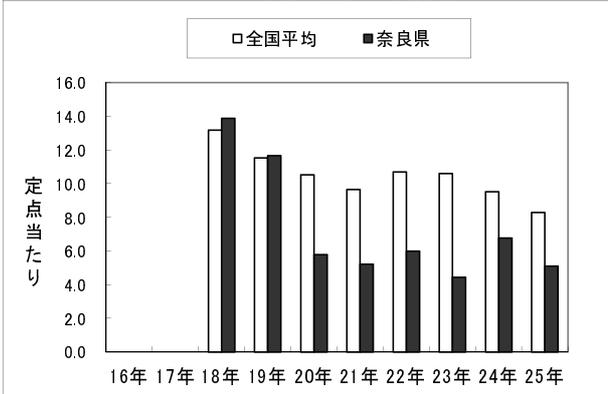


図 23-5 年齢別報告数（実数 10歳以上は1年平均）

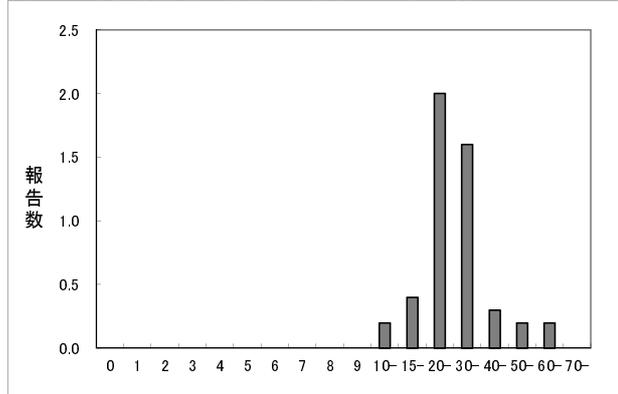
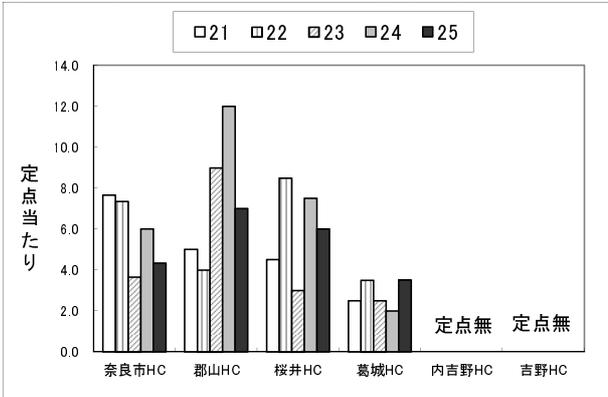


図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

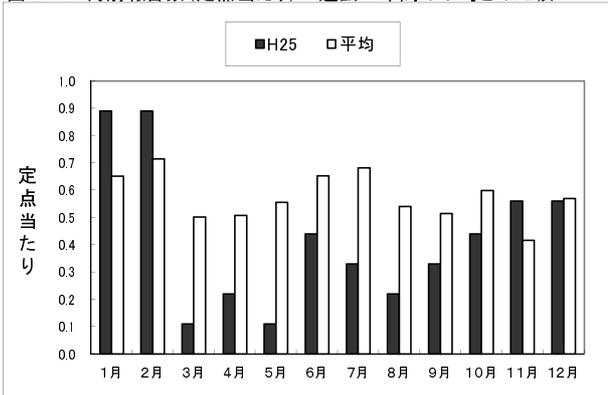


コメント

報告数は昨年に比較して減少したが、STD4疾患の中で第2位は変わらなかった。昨年の報告数が増加していたことからほぼ例年並みに戻ったといえる。年齢別では、10代前半の報告例が目目される。月別では、11月～2月の冬場に増加したのに対して、春～夏場に減少した。

(三馬 省二 記)

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



24.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

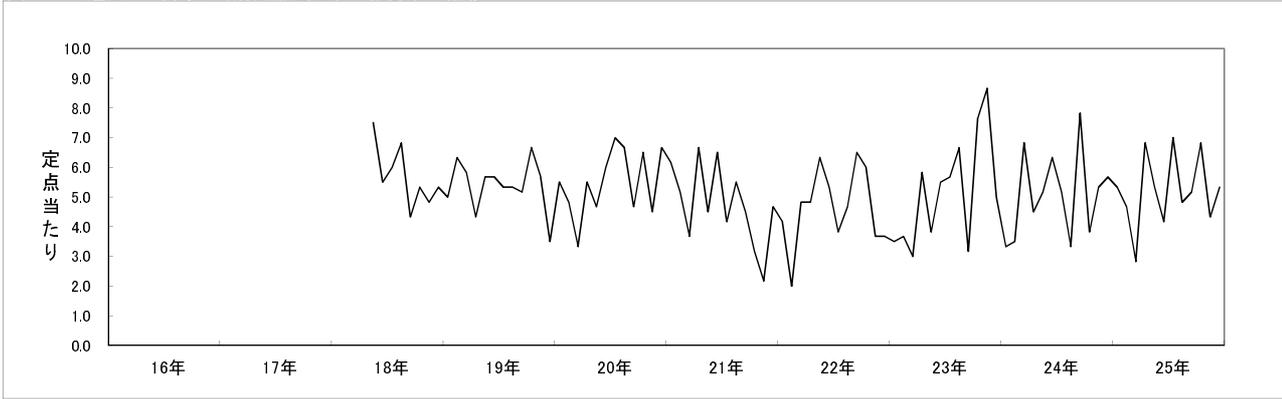


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

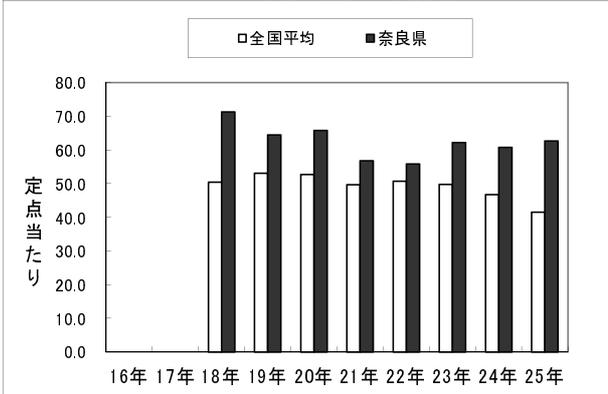


図 24-5 年齢別報告数（実数 10歳以上は1年平均）

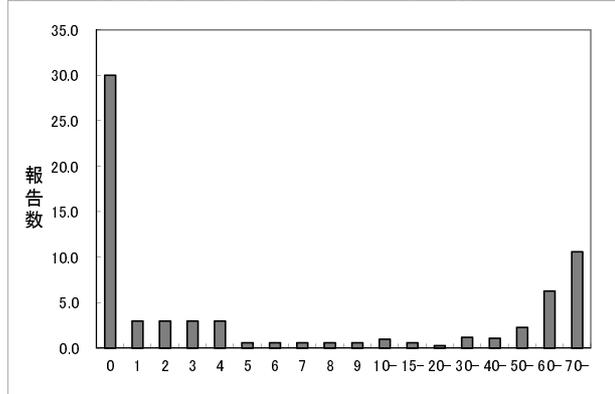
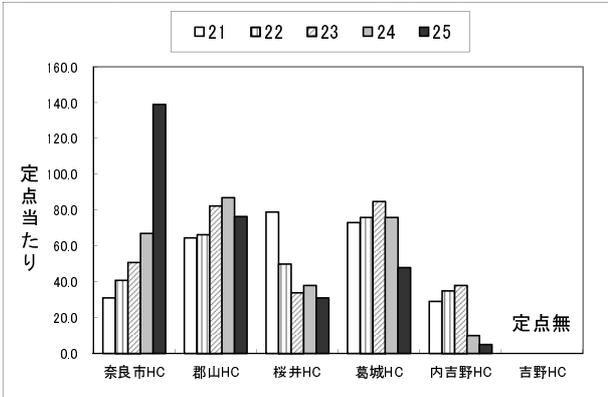


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



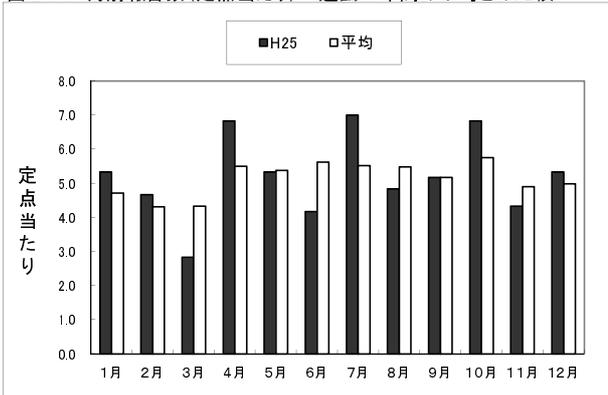
コメント

平成25年における全報告数は376例で、定点あたりの報告数は62.65と例年と大きな変化なく推移しているが、奈良県が全国平均より高い傾向にあることも変わりみられない。また、全国的にはMRSAの分離率は減少傾向にあるものの、奈良県では今のところその傾向がみられていない。

近年、本邦において、MRSAの中でも病原性が高いとされる市中感染型MRSAによる感染症が報告され始めており、市中のみならず病院内での分離もみられる。本調査では市中感染型MRSAの頻度は不明であるが、今後も医療関連感染対策のさらなる徹底が望まれる。

(矢野 寿一 記)

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



25.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

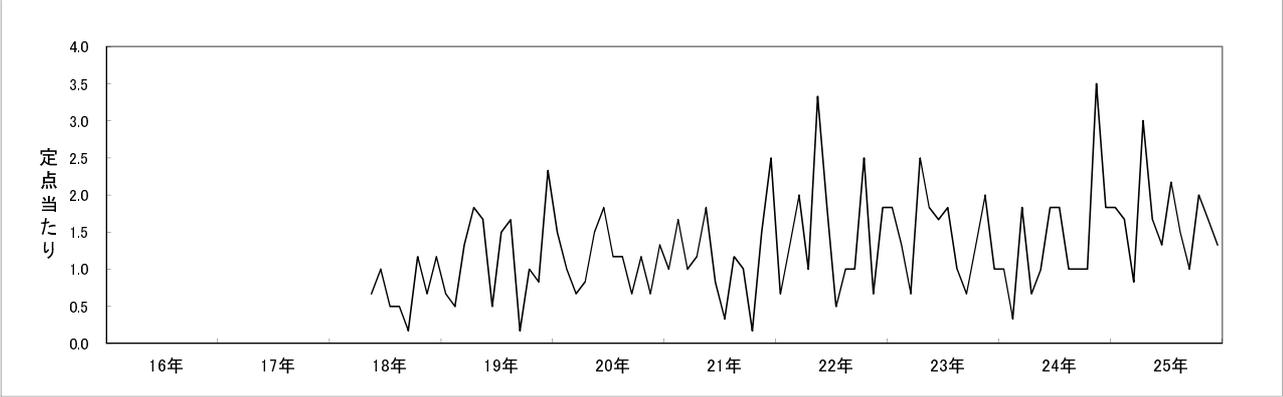


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

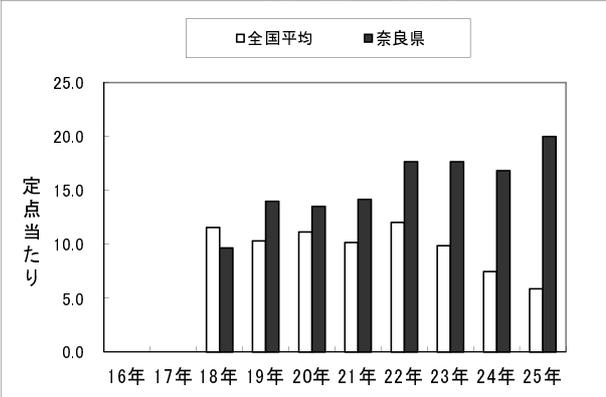


図 25-5 年齢別報告数（実数 10歳以上は1年平均）

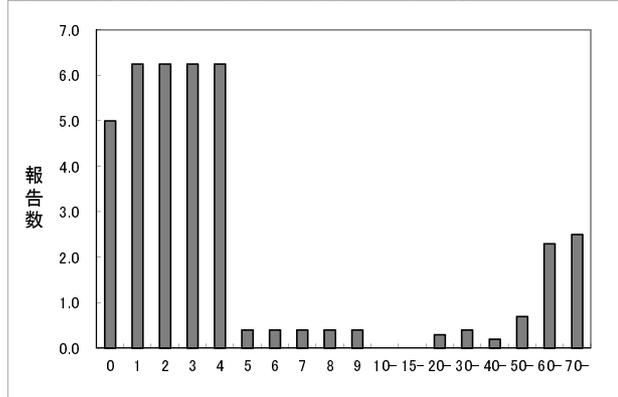
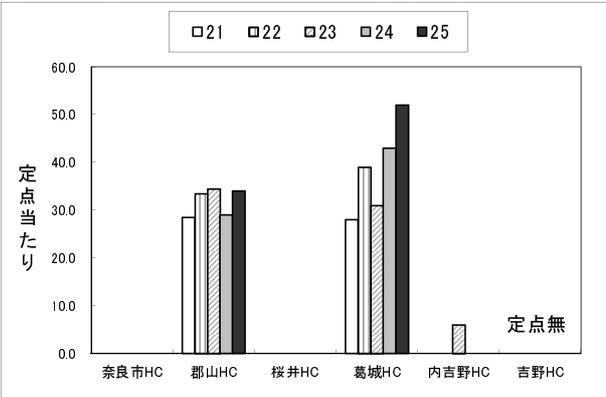


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



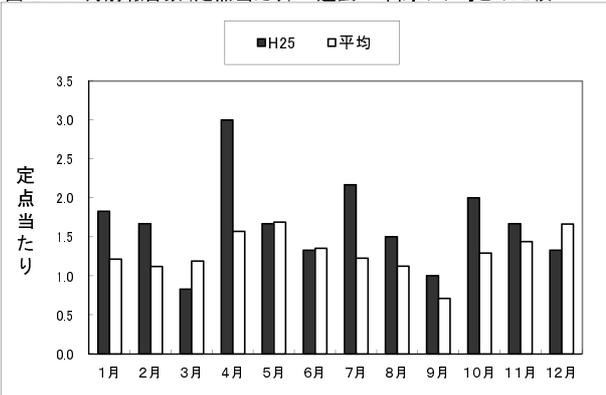
コメント

平成25年における全報告数は120例、定点あたりの報告数は20であった。全国的には、ペニシリン耐性肺炎球菌の分離率は減少傾向にある。

近年、肺炎球菌をとりまく環境が大きく変わり、2010年に7価結合型肺炎球菌ワクチンの任意接種が開始された（その後2013年4月に定期接種へ、2013年11月に13価結合型肺炎球菌ワクチンへ切り替え）。このワクチンは、ペニシリン耐性肺炎球菌の割合の高い血清型を中心に開発されたことから、ペニシリン耐性肺炎球菌分離率の減少はワクチン効果によるものとされている。このワクチンは小児を対象にしたものだが、集団的免疫効果によりワクチン非接種群への効果も知られている。奈良県においても、結合型肺炎球菌ワクチン接種率の増加を期待したい。

（矢野 寿一 記）

図 25-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



26. 薬剤耐性緑膿菌感染症

図 26-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

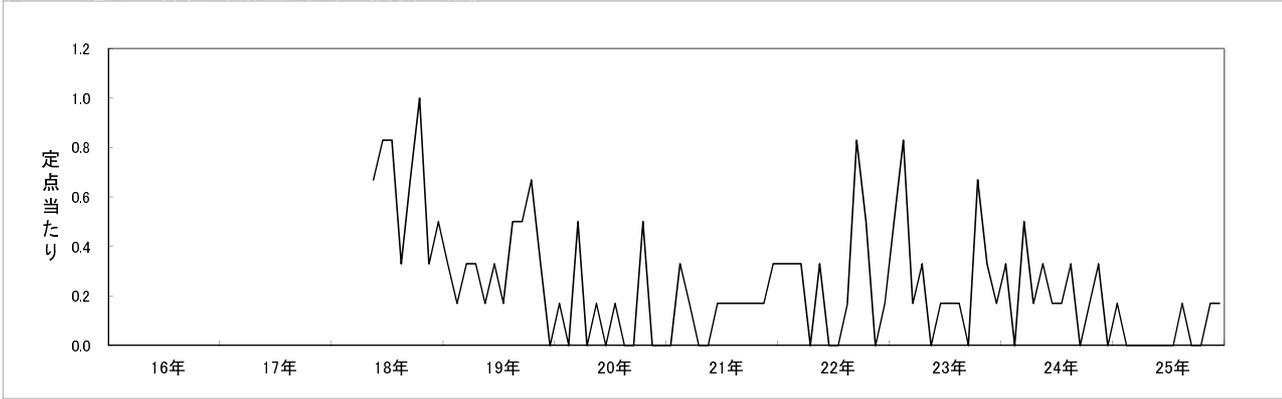


図 26-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

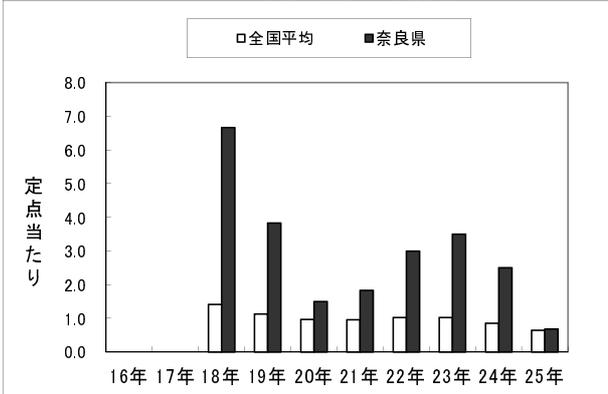


図 26-5 年齢別報告数 (実数 10歳以上は1年平均)

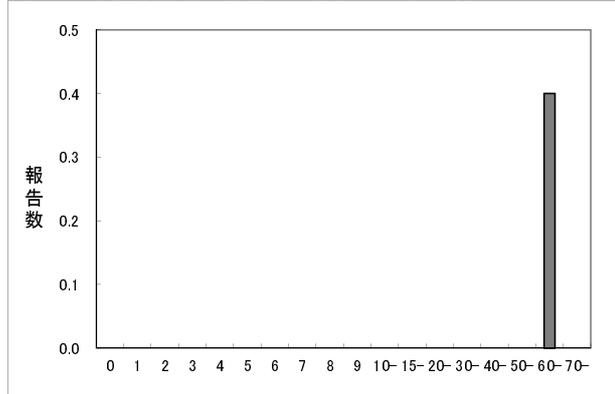
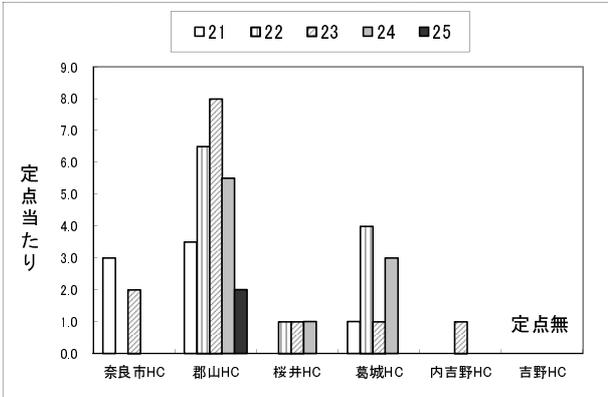


図 26-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

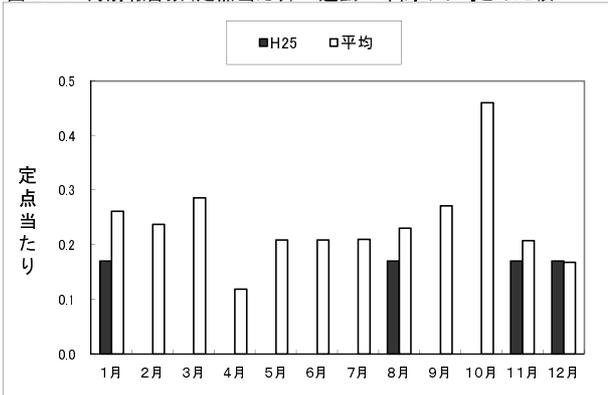


コメント

平成25年度における全報告数は4例で、定点あたりの報告数が0.68であった。これまで奈良県は全国平均をはるかに上回る報告数であったが、平成25年度は全国平均とほぼ同程度の報告数となった。薬剤耐性緑膿菌感染症は全国的に減少傾向にあるが、奈良県も平成24年度から再び減少傾向がみられる。今後もこの傾向が続くことが望まれる。

(矢野 寿一 記)

図 26-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



27. 薬剤耐性アシネトバクター感染症

図 27-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

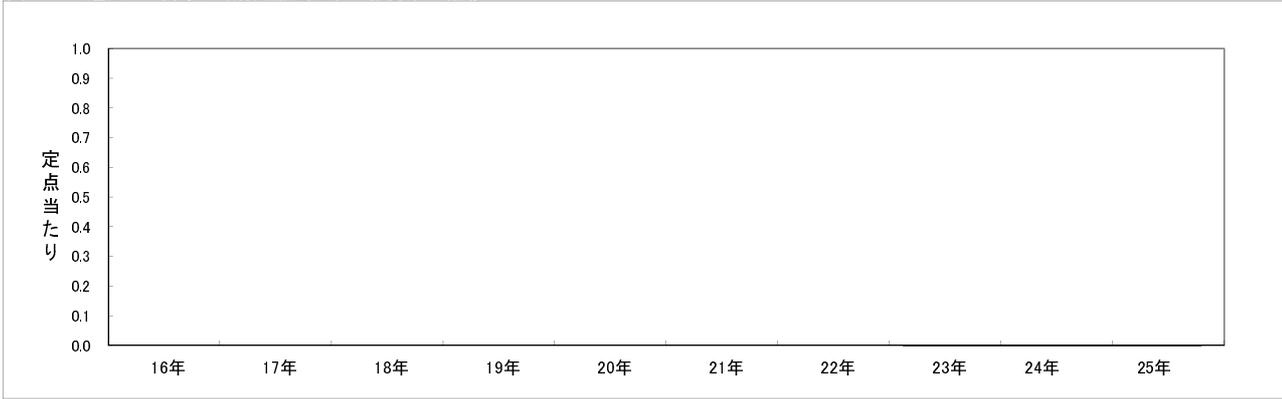


図 27-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

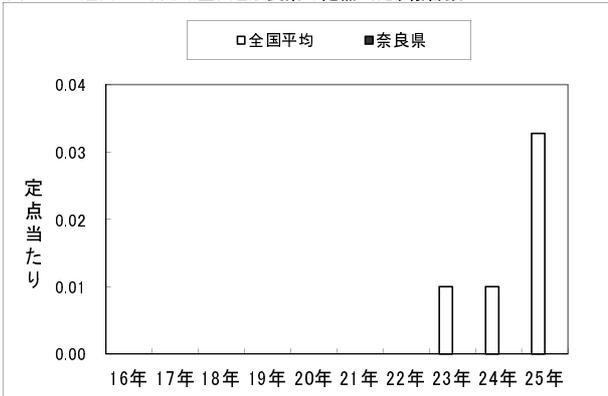


図 27-5 年齢別報告数 (実数 10歳以上は1年平均)

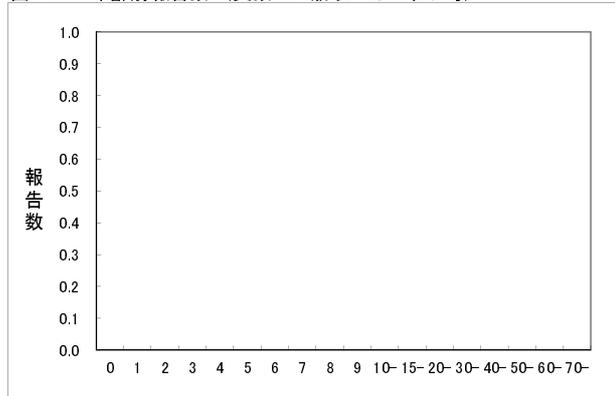
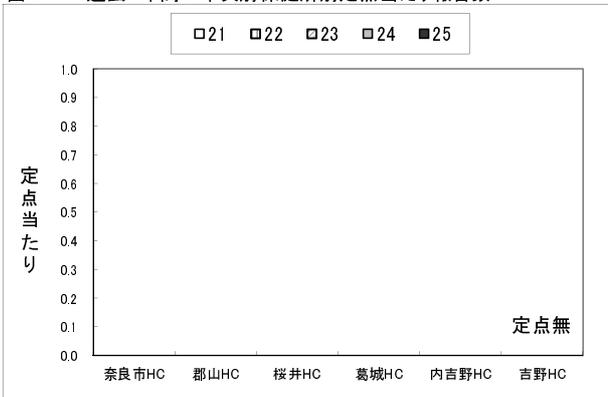


図 27-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

薬剤耐性アシネトバクターは海外で大きな問題となっているものの、本邦における分離率は非常に低く、奈良県においても25年度の報告はみられていない。
 しかしアシネトバクターは、乾燥状態でも数ヶ月生存することができるため、一度院内で蔓延すると除菌が非常に難しく、その動向に注意が必要な菌種である。
 また海外では、OXA-23型やOXA-48型酵素産生プラスミドを保有するアシネトバクターが分離され始めると、一気にその国内で蔓延することが知られている。このような耐性株が海外から流入することが常に懸念されることから、今後も、このような動向調査の継続が必要である。

(矢野 寿一 記)

図 27-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

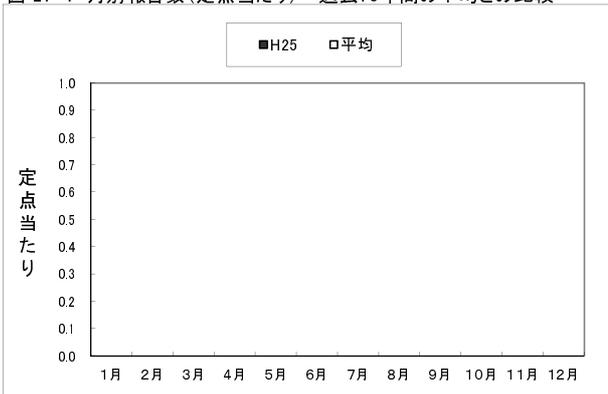


表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	3,756	3,283	1,444	515	250	43	1	1	0	6	20	152	9,471
RSウイルス感染症	86	77	52	28	10	4	14	23	116	138	129	239	916
咽頭結膜熱	33	31	48	70	67	70	46	26	23	14	41	101	570
A群溶連菌咽頭炎	120	111	107	117	166	126	77	36	47	67	77	83	1,134
感染症胃腸炎	965	796	951	968	893	405	332	251	325	282	550	1,061	7,779
水痘	135	99	94	135	159	96	83	57	86	64	75	138	1,221
手足口病	1	4	3	25	69	215	892	507	255	70	36	15	2,092
伝染性紅斑	4	4	3	2	2	3	9	0	2	1	1	1	32
突発性発しん	35	38	43	51	57	55	62	54	49	39	35	31	549
百日咳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ヘルパンギーナ	0	0	0	4	12	58	284	173	69	8	3	4	615
流行性耳下腺炎	14	5	7	10	13	10	12	21	15	16	17	14	154
計	1,394	1,165	1,308	1,410	1,448	1,042	1,811	1,148	987	699	964	1,687	15,063
急性出血性結膜炎	0	0	1	1	3	0	1	0	0	0	1	0	7
流行性角結膜炎	11	2	5	12	18	16	22	8	24	10	7	11	146
計	11	2	6	13	21	16	23	8	24	10	8	11	153
細菌性髄膜炎	1	0	1	2	0	0	1	1	0	1	0	1	8
無菌性髄膜炎	0	0	0	3	1	4	4	0	1	1	1	2	17
マイコプラズマ肺炎	9	2	4	0	2	1	1	1	1	2	2	0	25
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染症胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	2	1	3
計	10	2	5	5	3	5	6	2	2	4	5	4	53
性器クラミジア感染症	7	11	9	4	9	7	16	4	10	8	6	6	97
性器ヘルペスウイルス感染症	4	4	1	2	3	5	3	2	2	4	5	1	36
尖圭コンジローマ	1	2	3	1	0	1	0	0	0	0	2	2	12
淋菌感染症	8	8	1	2	1	4	3	2	3	4	5	5	46
計	20	25	14	9	13	17	22	8	15	16	18	14	191
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32	28	17	41	32	25	42	29	31	41	26	32	376
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	10	5	18	10	8	13	9	6	12	10	8	120
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	4
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	44	38	22	59	42	33	55	39	37	53	37	41	500

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	68.29	59.69	26.25	9.36	4.55	0.78	0.02	0.02	0.00	0.11	0.37	2.81	172.26
RSウイルス感染症	2.46	2.20	1.49	0.80	0.29	0.12	0.41	0.68	3.41	4.06	3.79	7.03	26.73
咽頭結膜熱	0.94	0.89	1.37	2.00	1.91	2.01	1.35	0.76	0.68	0.41	1.21	2.97	16.51
A群溶連菌咽頭炎	3.43	3.17	3.06	3.34	4.74	3.62	2.26	1.06	1.38	1.97	2.26	2.44	32.75
感染症胃腸炎	27.57	22.74	27.17	27.66	25.51	11.63	9.76	7.38	9.56	8.29	16.18	31.21	224.67
水痘	3.86	2.83	2.69	3.86	4.54	2.75	2.44	1.68	2.53	1.88	2.21	4.06	35.32
手足口病	0.03	0.11	0.09	0.71	1.97	6.21	26.24	14.91	7.50	2.06	1.06	0.44	61.33
伝染性紅斑	0.11	0.11	0.09	0.06	0.06	0.09	0.26	0.00	0.06	0.03	0.03	0.03	0.93
突発性発しん	1.00	1.09	1.23	1.46	1.63	1.59	1.82	1.59	1.44	1.15	1.03	0.91	15.93
百日咳	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
ヘルパンギーナ	0.00	0.00	0.00	0.11	0.34	1.68	8.35	5.09	2.03	0.24	0.09	0.12	18.05
流行性耳下腺炎	0.40	0.14	0.20	0.29	0.37	0.29	0.35	0.62	0.44	0.47	0.50	0.41	4.48
計	39.83	33.29	37.37	40.29	41.37	29.99	53.26	33.76	29.03	20.56	28.35	49.62	436.72
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.11	0.11	0.33	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.78
流行性角結膜炎	1.22	0.22	0.56	1.33	2.00	1.78	2.44	0.89	2.67	1.11	0.78	1.22	16.22
計	1.22	0.22	0.67	1.44	2.33	1.78	2.56	0.89	2.67	1.11	0.89	1.22	17.00
細菌性髄膜炎	0.17	0.00	0.17	0.33	0.00	0.00	0.17	0.17	0.00	0.17	0.00	0.17	1.33
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50	0.17	0.67	0.67	0.00	0.17	0.17	0.17	0.33	2.83
マイコプラズマ肺炎	1.50	0.33	0.67	0.00	0.33	0.17	0.17	0.17	0.17	0.33	0.33	0.00	4.17
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染症胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.00	0.33	0.17	0.50
計	1.67	0.33	0.83	0.83	0.50	0.83	1.00	0.33	0.33	0.67	0.83	0.67	8.83
性器クラミジア感染症	0.78	1.22	1.00	0.44	1.00	0.78	1.78	0.44	1.11	0.89	0.67	0.67	10.78
性器ヘルペスウイルス感染症	0.44	0.44	0.11	0.22	0.33	0.56	0.33	0.22	0.22	0.44	0.56	0.11	4.00
尖圭コンジローマ	0.11	0.22	0.33	0.11	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.22	0.22	1.33
淋菌感染症	0.89	0.89	0.11	0.22	0.11	0.44	0.33	0.22	0.33	0.44	0.56	0.56	5.11
計	2.22	2.78	1.56	1.00	1.44	1.89	2.44	0.89	1.67	1.78	2.00	1.56	21.22
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5.33	4.67	2.83	6.83	5.33	4.17	7.00	4.83	5.17	6.83	4.33	5.33	62.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.83	1.67	0.83	3.00	1.67	1.33	2.17	1.50	1.00	2.00	1.67	1.33	20.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.17	0.17	0.67
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	7.33	6.33	3.67	9.83	7.00	5.50	9.17	6.50	6.17	8.83	6.17	6.83	83.33

表2-1 疾患別 年齢別報告数

年齢	0-6M	7-12M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	
インフルエンザ	28	79	299	319	370	471	557	566	512	543	425	1,593	622	699	694	679	410	285	188	132	9,471	
RSウイルス感染症	133	206	311	140	64	41	5	1	3	1	1	7	2	1								916
咽頭結膜熱	6	23	144	83	71	77	64	42	9	13	10	20	2	6								570
A群溶連菌咽頭炎	0	2	32	51	87	171	154	138	136	114	82	123	11	33								1,134
感染症胃腸炎	68	426	1,177	780	609	546	474	368	338	239	241	662	323	1,528								7,779
水痘	15	38	193	225	216	149	136	91	49	36	23	37	7	6								1,221
手足口病	33	155	675	476	277	179	107	58	32	27	12	30	6	25								2,092
伝染性紅斑	0	2	9	0	6	4	2	4	1	1	0	1	0	2								32
突発性発しん	22	234	246	41	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0								549
百日咳	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								1
ヘルパンギーナ	5	59	153	145	95	50	44	19	12	10	4	14	2	3								615
流行性耳下腺炎	0	0	6	19	16	14	32	17	16	10	4	15	1	4								154
計	282	1,146	2,946	1,960	1,444	1,234	1,018	738	596	451	377	909	354	1,608	0	0	0	0	0	0	0	15,063
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	2	0	0	0	7
流行性角結膜炎	0	0	2	0	2	1	1	0	0	1	2	2	8	18	30	21	16	21	21	21	0	146
計	0	0	2	0	2	1	1	0	0	1	2	2	8	20	30	22	18	23	21	21	0	153

年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-	合計
細菌性髄膜炎	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2	8
無菌性髄膜炎	3	3	4	3	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	17
マイコプラズマ肺炎	0	5	12	4	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	25
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
計	5	10	17	7	1	1	4	1	1	0	1	0	1	0	2	2	53
性器クラミジア感染症	0	0	0	2	11	25	16	12	14	9	4	0	1	0	3	0	97
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	0	1	5	3	8	2	2	0	3	3	3	6	36
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	0	1	2	2	4	0	2	1	0	0	0	0	12
淋菌感染症	0	0	0	1	2	13	7	8	8	1	2	0	2	2	0	0	46
計	0	0	0	3	13	40	30	25	34	12	10	1	6	5	6	6	191
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	25	2	0	0	1	2	0	4	1	1	4	3	9	14	49	120
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	25	2	0	0	1	2	0	4	1	1	4	3	11	16	49	124

年齢別報告数(実数 10歳以上は1歳平均)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
インフルエンザ	107.0	299.0	319.0	370.0	471.0	557.0	566.0	512.0	543.0	425.0	318.6	124.4	69.9	69.4	67.9	41.0	28.5	18.8	13.2
RSウイルス感染症	339.0	311.0	140.0	64.0	41.0	5.0	1.0	3.0	1.0	1.0	1.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	29.0	144.0	83.0	71.0	77.0	64.0	42.0	9.0	13.0	10.0	4.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A群溶連菌咽頭炎	2.0	32.0	51.0	87.0	171.0	154.0	138.0	136.0	114.0	82.0	24.6	2.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
感染症胃腸炎	494.0	1,177.0	780.0	609.0	546.0	474.0	368.0	338.0	239.0	241.0	132.4	64.6	21.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水痘	53.0	193.0	225.0	216.0	149.0	136.0	91.0	49.0	36.0	23.0	7.4	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手足口病	188.0	675.0	476.0	277.0	179.0	107.0	58.0	32.0	27.0	12.0	6.0	1.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伝染性紅斑	2.0	9.0	0.0	6.0	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
突発性発しん	256.0	246.0	41.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
百日咳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	64.0	153.0	145.0	95.0	50.0	44.0	19.0	12.0	10.0	4.0	2.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	0.0	6.0	19.0	16.0	14.0	32.0	17.0	16.0	10.0	4.0	3.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1,428.0	2,946.0	1,960.0	1,444.0	1,234.0	1,018.0	738.0	596.0	451.0	377.0	181.8	70.8	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
急性出血性結膜炎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.2	0.2	0.0	0.0
流行性角結膜炎	0.0	2.0	0.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.4	1.6	1.8	3.0	2.1	1.6	2.1	2.1	0.0
計	0.0	2.0	0.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.4	1.6	2.0	3.0	2.2	1.8	2.3	2.1	0.0

表2-2 疾患別 世代別報告数

疾患別 世代別 1歳平均 換算表

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期	高齢期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20~59歳	60歳~
インフルエンザ	107.0	403.2	404.3	124.4	62.1	20.2
RSウイルス感染症	339.0	112.2	1.4	0.4	0.0	
咽頭結膜熱	29.0	87.8	10.4	0.4	0.1	
A群溶連菌咽頭炎	2.0	99.0	65.9	2.2	0.5	
感染症胃腸炎	494.0	717.2	205.3	64.6	21.8	
水痘	53.0	183.8	26.2	1.4	0.1	
手足口病	188.0	342.8	17.7	1.2	0.4	
伝染性紅斑	2.0	4.2	0.8	0.0	0.0	
突発性発しん	256.0	58.6	0.0	0.0	0.0	
百日咳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ヘルパンギーナ	64.0	97.4	6.6	0.4	0.0	
流行性耳下腺炎	0.0	17.4	6.9	0.2	0.1	
計	1,428.0	1,720.4	341.2	70.8	23.0	

小児科定点の疾患別 世代別割合

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	23.7%	6.5%	0.4%	0.6%	0.1%
咽頭結膜熱	2.0%	5.1%	3.1%	0.6%	0.4%
A群溶連菌咽頭炎	0.1%	5.8%	19.3%	3.1%	2.1%
感染症胃腸炎	34.6%	41.7%	60.2%	91.2%	95.0%
水痘	3.7%	10.7%	7.7%	2.0%	0.4%
手足口病	13.2%	19.9%	5.2%	1.7%	1.6%
伝染性紅斑	0.1%	0.2%	0.2%	0.0%	0.1%
突発性発しん	17.9%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
百日咳	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ヘルパンギーナ	4.5%	5.7%	1.9%	0.6%	0.2%
流行性耳下腺炎	0.0%	1.0%	2.0%	0.3%	0.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	1,827	2,499	1,414	3,042	349	340	4,326	4,456	689	9,471
RSウイルス感染症	163	203	218	196	30	106	366	414	136	916
咽頭結膜熱	119	90	45	256	8	52	209	301	60	570
A群溶連菌咽頭炎	259	341	151	293	41	49	600	444	90	1,134
感染症胃腸炎	1,342	2,241	1,383	2,092	410	311	3,583	3,475	721	7,779
水痘	306	322	201	302	43	47	628	503	90	1,221
手足口病	595	456	371	543	41	86	1,051	914	127	2,092
伝染性紅斑	17	8	4	2	0	1	25	6	1	32
突発性発しん	159	105	118	104	46	17	264	222	63	549
百日咳	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ヘルパンギーナ	139	195	113	100	47	21	334	213	68	615
流行性耳下腺炎	43	37	36	25	11	2	80	61	13	154
計	3,143	3,998	2,640	3,913	677	692	7,141	6,553	1,369	15,063
急性出血性結膜炎	2	0	0	5	0	0	2	5	0	7
流行性角結膜炎	32	47	33	20	0	14	79	53	14	146
計	34	47	33	25	0	14	81	58	14	153
細菌性髄膜炎	0	7	0	1	0	0	7	1	0	8
無菌性髄膜炎	2	14	0	0	1	0	16	0	1	17
マイコプラズマ肺炎	1	13	0	4	7	0	14	4	7	25
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	1	0	0	2	0	1	0	2	3
計	3	35	0	5	10	0	38	5	10	53
性器クラミジア感染症	25	22	20	30	0	0	47	50	0	97
性器ヘルペスウイルス感染症	15	2	7	12	0	0	17	19	0	36
尖圭コンジローマ	5	4	2	1	0	0	9	3	0	12
淋菌感染症	13	14	12	7	0	0	27	19	0	46
計	58	42	41	50	0	0	100	91	0	191
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	139	153	31	48	5	0	292	79	5	376
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	68	0	52	0	0	68	52	0	120
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	4	0	0	0	0	4	0	0	4
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	139	225	31	100	5	0	364	131	5	500

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	166.09	156.19	128.55	276.55	117.17	113.33	160.22	202.55	115.10	172.26
RSウイルス感染症	23.29	20.30	31.14	28.00	22.00	53.00	21.53	29.57	39.42	26.73
咽頭結膜熱	17.00	9.00	6.43	36.57	6.50	26.00	12.29	21.50	16.33	16.51
A群溶連菌咽頭炎	37.00	34.10	21.57	41.86	23.50	24.50	35.29	31.71	24.00	32.75
感染症胃腸炎	191.71	224.10	197.57	298.86	254.50	155.50	210.76	248.21	198.00	224.67
水痘	43.71	32.20	28.71	43.14	31.50	23.50	36.94	35.93	25.50	35.32
手足口病	85.00	45.60	53.00	77.57	38.00	43.00	61.82	65.29	40.92	61.33
伝染性紅斑	2.43	0.80	0.57	0.29	0.00	0.50	1.47	0.43	0.33	0.93
突発性発しん	22.71	10.50	16.86	14.86	31.50	8.50	15.53	15.86	17.83	15.93
百日咳	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.03
ヘルパンギーナ	19.86	19.50	16.14	14.29	44.00	10.50	19.65	15.21	22.00	18.05
流行性耳下腺炎	6.14	3.70	5.14	3.57	6.00	1.00	4.71	4.36	3.33	4.48
計	449.00	399.80	377.14	559.00	457.50	346.00	420.06	468.07	387.67	436.72
急性出血性結膜炎	2.00	0.00	0.00	2.50	0.00	0.00	0.50	1.25	0.00	0.78
流行性角結膜炎	32.00	15.67	16.50	10.00	0.00	14.00	19.75	13.25	14.00	16.22
計	34.00	15.67	16.50	12.50	0.00	14.00	20.25	14.50	14.00	17.00
細菌性髄膜炎	0.00	3.50	0.00	1.00	0.00	0.00	2.33	0.50	0.00	1.33
無菌性髄膜炎	2.00	7.00	0.00	0.00	1.00	0.00	5.33	0.00	1.00	2.83
マイコプラズマ肺炎	1.00	6.50	0.00	4.00	7.00	0.00	4.67	2.00	7.00	4.17
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.50	0.00	0.00	2.00	0.00	0.33	0.00	2.00	0.50
計	3.00	17.50	0.00	5.00	10.00	0.00	12.67	2.50	10.00	8.83
性器クラミジア感染症	8.33	11.00	10.00	15.00	0.00	0.00	9.40	12.50	0.00	10.78
性器ヘルペスウイルス感染症	5.00	1.00	3.50	6.00	0.00	0.00	3.40	4.75	0.00	4.00
尖圭コンジローマ	1.67	2.00	1.00	0.50	0.00	0.00	1.80	0.75	0.00	1.33
淋菌感染症	4.33	7.00	6.00	3.50	0.00	0.00	5.40	4.75	0.00	5.11
計	19.33	21.00	20.50	25.00	0.00	0.00	20.00	22.75	0.00	21.22
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	139.00	76.50	31.00	48.00	5.00	0.00	97.33	39.50	5.00	62.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	34.00	0.00	52.00	0.00	0.00	22.67	26.00	0.00	20.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.33	0.00	0.00	0.67
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	139.00	112.50	31.00	100.00	5.00	0.00	121.33	65.50	5.00	83.33